京城日報

朝刊と合せて十六頁

定價 [illegible]

廣告料 [illegible]

發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 谷口政太郎
京城大平通一丁目

發行所 合資會社 京城日報社
電話 [illegible]

列強大戰

▲獨軍又復擊退

露參謀本部公報に曰く「ドウインスク地方にて再び激戰開始せられたり ノウオアレキサンドロウスク方面にて獨軍は屢々砲擊を行ひたるも悉く擊退せられたり ウイレイカの西方にて大戰鬪行はれ四回に渉る獨軍の襲擊は悉く擊退せられ ブリペット河の南方前線に於て激烈なる戰鬪繼續さる（紐育電報）

▲獨軍西轉

英佛軍が攻勢を取れる結果獨軍近衛兵全軍團は佛蘭西方面に送られたるを以て露軍の退却に對する敵の壓迫は大に輕減せり 然れどもロデチの地方に於ける敵は頑强に我退却地を保持し居れる爲め同方面に於ける我軍の陣地は頗る困難となれり（露都電報）

▲勃國默す

ソフィア（勃國首府）來電に曰く、勃牙利は三國協商側（英佛露）よりの最後の共同通牒に對し未だ何等の回答を爲さずされど近々回答ある可しと期待さる 農民等は平靜に而も元氣無く召集に應じ行くを見る 勃牙利が平和を欲し居るは明かなり 政府は國民の此感情を知れるを以て決して何等無望の運動を起さんとは思意せず（倫敦電報）

◎東北縱斷飛行

今秋擧行すべき陸軍特別大演習に參加する飛行機輸送の機を利用し所澤より演習地に至る關東々北縱斷大飛行計畫は二十九日陸軍省より發表せられたり 飛行參加飛行機は四臺にして出發期は十月七日より十三日頃迄の間にして行程百七十里に達す 尙復行も同じく四臺の飛行機を以てすべく 演習參加飛行機數は十二臺なり（東京特電）

◎河野農相一行

河野農商務大臣一行は三十日午前十時三十分發列車にて京城へ向へり（釜山特電）

◎立花警務總長

歸任の途に在る立花警務總長は三十日午前内地より著釜同十時三十分發列車にて京城へ向へり（釜山特電）

◎肝付男爵

貴族院議員豫備海軍中將男爵肝付兼行氏は三十日午前著釜同十時卅分發列車にて京城へ向へり（釜山特電）

◎谷口知事

福岡縣知事谷口留五郎氏は隨員一名を伴ひ三十日午前著釜同十時半發列車にて京城へ向へり（釜山特電）

東京發別電

◎聯合軍又勝つ 聯合軍は攻擊を繼續し獨軍の第二線を破壞し獨軍は對露の軍を移さんとの決戰は今後にあり

◎露内閣動搖 露政府は人心を拾收する能はず内閣の基礎益々危くなれり

◎兩汽船會社の提携 大阪商船會社と東洋汽船會社との提携成りたり

◎東北大飛行 所澤と青森間の大飛行演習に參加する將校決定す

◎上院議員と大浦氏 大浦前内相の不起訴に反對する有力者上院議員中に多數あり來るべき議會の大問題たるを免れずと

◎公債募集佳良 政府の内國債募集の申受甚だ好し

◎露閣員戰地へ 露國内閣員全部は親征中の露國皇帝に謁見の爲め戰地に向ふ

◎獨西部戰線敗北 獨軍の西部戰線勢ひ甚だ振はず日に敗北の色あり

◎大阪工廠能力調査 廿九日大阪砲兵工廠に於ては各工塲主を悉く召集し兵器彈藥製造能力の調査を爲せり

◎對馬艦歸著 帝國軍艦對馬は廿八日南洋を無事吳港に歸著せり

◎帝政問題と政府の態度 帝國政府は支那帝政問題に對し近く我國の採る可き態度を決定す可し

朝鮮大共進會

◎昌德宮午饗會

李王並に同妃兩殿下は三十日正午より昌德宮仁政殿内に於て午餐會を開き閑院宮同妃兩殿下を御招待申し上げしが寺内總督、山縣政務總監、各部長官、局長、中樞院參議、顧問、書記官長其他朝鮮貴族等五十餘名參列せり、閉會後兩殿下は秘苑、博物館及び御觀覽ありて更に總督醫院工業傳習所に成らせられたり

◎赤愛總會 次第と注意

日本赤十字社朝鮮本部第二回總會並に愛國婦人會朝鮮本部第三回總會は愈十一月二日午前十時より昌德宮秘苑に於て開催せらるゝこととなれり 當日の次第左の如し

午前九時三十分迄に招待員、社員、會員、遺族廢兵一同會塲に參著

午前九時五十分 兩殿下御著 兩朝鮮本部長以下適當の塲所に於て奉迎、兩朝鮮本部長御先導御休憩所に入らせらる、兩朝鮮本部長は御休憩中職員名簿、社務、會務の狀況書を上る、午前九時五十分爆竹の相圖に依り招待員、社員、會員、遺族廢兵一同標示の位置に整列、午前十時兩朝鮮本部長御先導兩殿下式塲台臨、奏樂君ケ代、一同敬禮

日本赤十字社朝鮮本部第二回總會開催

山縣朝鮮本部總長日本赤十字社朝鮮本部第二回總會開催を宣告す

總裁殿下御諭旨を給ふ一同最敬禮、評議員國分事務官通譯文奉讀

山縣朝鮮本部總長奉答 國分事務官通譯文朗讀、宇佐美朝鮮本部副總長事務會計を報告す（印刷物を以て之に代ゆ）

小澤本社長祝辭、山縣朝鮮本部總長有功章、特別社員章御親授の旨を宣告す、本社職員の召呼に應じ拜受者御前に進む、總裁殿下有功章、特別社員章御親授、小澤本社長賞記推薦書を授與す（總代之を受く）朝鮮本部總長日本赤十字社朝鮮本部總會の閉會を宣告す

愛國婦人會朝鮮本部第三回總會開催

朝鮮本部長代理副長國分峰子愛國婦人會朝鮮本部第三回總會開會を宣告す、總裁殿下御諭旨を賜ふ、一同最敬禮、藤波通譯官通譯文奉讀、朝鮮本部長奉答藤波通譯官通譯文朗讀、朝鮮本部相談役兒玉伯爵事務會計を報告す（印刷物を以て之に代ゆ）本會長祝辭、國分朝鮮本部長有功章特別賜金御親授の旨を宣告す、特別賜金會職員の召呼に應じ拜受者御前に進む、總裁殿下有功章、特別賜金（軍人遺族、廢兵各總代）御親授、本會長濱尾副會長賞狀を授與す（總代之を受く）朝鮮本部長閉會を宣告す、兩殿下御退塲、奏樂、一同最敬禮、兩朝鮮本部長御先導御休憩所に入らせらる、右畢て餘興開始爆竹

▲參列者注意

當日一般參列者は式後食券引換に祝酒、辨當を受取られ會住又は餘興觀覽の上秘苑一周、動、植物園及び博物館を參觀畢て隨意散會のこと、茶話會に招待せられたる者は式後（餘興開始前）直ちに昌德宮仁政殿内茶話會會塲へ出席（封筒中に案内參考有）せられ茶話會後隨意秘苑及び各所參觀の上散會の事茶話會參會者には總裁殿下より特に御菓子折を賜はる筈、子供を連れたる者略章佩用者は入塲を謝絶すべし、茶話會參會者の履きものは可成靴又は草履のこと、一般參列者の爲め當日午前八時受付を開始すべし

◎河野農相一行

農商務大臣河野廣中氏は三十日午後九時南大門驛著汽車にて入京朝鮮ホテルに投宿の筈なり一行は農相の外岡本山林局長、立石秘書官、月田技師、野守事務官及び屬二名技手一名也

◎渡邊地方局長

朝鮮視察を兼ね共進會開會式に參列す可き内務省地方局長渡邊勝三郎氏は去る二十八日渡鮮大邱に滯在視察中の處卅日午後九時南大門驛著入京の河野農相の一行に合し入京す

◎鐵協會員入京

前鐵道院總裁仙石貢氏同前滿鐵總裁野村龍太郎氏鐵道協會員八十五名は三十日午後五時南大門驛著臨時列車にて入京せり

◎三井男一行

男爵三井八郎右衛門氏合息三井高清氏三井男令婿侯爵中御門經恭氏三井鑛山會社秘書長阪井德太郎氏同取締役福井菊三郎氏同取締役岡本貫一氏外一行十一名は卅日朝南大門驛著列車にて入京朝鮮ホテルに投じたるが四五日間滯在す可しと

◎古市博士入京

古市工學博士は夫人同伴にて三十日午前六時三十分南大門驛著入京、京城ホテルに投宿せり、同氏は共進會開會式及び鐵道一千哩記念祝賀會に列席の上鮮内各所を見物し餘日あらば滿洲方面をも視察せん希望なるも日時の都合もあれば未だ確とは決定し居らずと

◎白仁長官歡迎

在京城福岡縣人有志の發起に係る白仁關東都督府民政長官の歡迎會は二十九日午後六時半より朝鮮ホテルに於て開かれ吉原東拓總裁、野田同副總裁、城數馬氏、井上東拓理事、木村鮮銀理事其他官民の出席者多數にて盛會なりし

◎石塚長官輕快

病氣の爲め久しく引籠り療養中なる農商工部長官石塚英藏氏は其後の經過良好にして昨今大に輕快に向へりと但し登廳までには尙ほ相當の日子を要す可し

觀覽團消息

△開城郡二百九十三名△三水郡九十名△延日郡百十八名△公州農業學校八十八名△天安尋常小學校六十名△安州郡百十四名△徐川郡七十二名△永同郡百三十名△宜寧郡百二十名△馬山府六十九名（二十九日入京）△務安郡九十七名△和順郡六十五名△求禮郡二十九名△木浦小學校三十三名△沃溝郡百三十二名△金泉百二十名△同金泉公普校生徒三十七名△慶興郡二十六名

共進會入塲者

廿九日（水曜日、晴）

▲晝間 一萬一千六百四十六人

內地人	三千六百八十七人
朝鮮人	六千五百六十一人
支那人	三十五人
其他の外人	五十五人
無料者	一千三百零八人

▲夜間 二千四百十五人

內地人	三百三十九人
朝鮮人	一千六百二十八人
支那人	四人
其他の外人	十四人
無料者	四百三十人

▲合計 一萬四千零六十一人

△開塲以來累計▽

晝間	二十二萬一千九百二十四人
夜間	十萬三千二百十七人

▲總計 三十二萬五千百四十一人

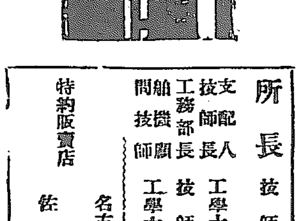
人事消息

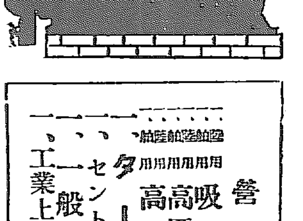
▲勅使河原健之助氏（咸興地方法院長）二十九日午後入京天眞樓へ投宿
▲片山修吉氏（横濱貿易新聞記者）二十九日午後入京山本旅館へ投宿
▲岡本巖氏（奈良朝報記者）同上
▲岩本以明氏（釜山地方法務長）同巴城館へ
▲増田大吉氏（鎭南浦商業會議所會頭）同旅館へ
▲尾崎伊三郎（貴族院議員）同不知火旅館へ
▲鹽谷五郎氏（福岡縣技師）同浦尾旅館へ
▲村山金平氏（代議士）同上
▲西川寅次郎氏（新義州電氣會社支配人）
▲三原新三氏（木浦礦業協技師）入京中の處二十九日仁川へ
▲阿部讓氏（安東縣領事館出張所長）二十九日歸任
▲井上正愛氏（靜山領事館出張所長）入京中の處二十九日發程
▲中村光吉氏（大連領事館出張所長）同上
▲松原純一氏（長春領事館出張所長）同上
▲黑川鏡氏（大邱覆審法院檢事長）二十九日夜入京仁寺洞寺川檢事宅へ滯在
▲村井吉兵衛氏（實業家）廿九日入京天眞樓
▲田邊逵策氏（三國合資會社長）同上
▲中野太左衛門氏（內外株式合資會社長）
▲野村龍太郎氏（前滿鐵總裁）卅日午後五時南大門驛著臨時列車にて入京
▲西田常三郎氏（元山毎日社長）三十日午
▲矢野久三郎氏（釜山稅關長）同上浦尾へ
▲永田包雄氏（咸興典獄）三十日入京
▲前田信兆氏（光州地方法院長）三十日入
▲宮崎又二郎氏（江原二部長）三十日入京不知火へ
▲須藤素氏（全南二部長）同上
▲中橋德五郎氏（元大商社長）三十日入京朝鮮ホテルに
▲中村雄次郎氏（前滿鐵總裁）一行四名廿九日午後入京朝鮮ホテルに
▲酒田博士 入京中の所三十日午前內地へ
▲泰國蒴氏（支那觀武官）外一名入京中の所三十日午前內地へ
▲高野省三氏（三井京城支店長）三十日午前歸京
▲鈴木隆氏（忠北長官）卅日午前入京巴城館
▲天野喜之助氏（群山府尹）同上朝日旅館
▲渡邊勝三郎氏（內務省地方局長）三十日午後九時入京の答
▲富家正義氏（開城出張所長）夢想事務打合の爲め十月一日出府
▲關枝博氏（土木局技師）大邱警察署新築工事設計檢査の爲め十月二日同地に出張
▲岩井長三郎氏（土木局技師）忠南長官々舍新築工事監督の爲め十月四日同地に出張
▲立花警務總長（陸軍中將）卅日午後九時南大門驛著入京の答
▲河野農相一行 同上
▲肝付兼行男（海軍中將）同上
▲谷口留五郎（福岡縣知事）同上
▲中御門經恭氏（侯爵）卅日午前六時五十分南大門驛著朝鮮ホテルに
▲三井八郎左衛門氏夫妻（男爵）▲同高精氏（同令息）同上
▲阪井德太郎氏▲田村鐵輔氏▲新宮涼男氏▲福井菊三郎氏▲岡本貫一氏（以上三井社員）同上
▲川口虎雄氏（熊本高等工業學校長）入京井上幸藏氏宅滯在中
▲仙石貢氏（前鐵道院總裁工學博士）卅日午後五時三十五分南大門驛著臨時列車にて入京

南言北語

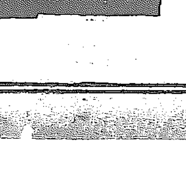
露軍は依然として有利であるイワーノフ將軍は南方戰線で再び獨軍を擊破して居る▲ウイルナ附近では激戰が繼續して未だ勝敗は不明である▲西部戰線でも英佛軍は著々成功して獨軍の旗色は益々惡い▲鹵獲した大砲でも七十餘門あるとの事▲敵十分間に五十萬發も巨彈を送つて居た獨軍であるから七十門位取られても平氣であらう▲獨軍は英軍がラ、バツセの南方を猛擊した事はないなど否認し居るが何方が何だか▲兩方面の戰報に接してカイゼルが眞つ赤になつて居るだらうと書いて居たが▲果して眞ツ赤も眞ツ赤地團太踏込んで嚇怒したらしい▲大本營をルクセンブルグに進めて帝國の興廢は西部戰線にあり▲朕は聯合軍の成功する毎に各司令官の職務怠慢の罪を問ひ其の責に任せしむべしと嚴命した▲而して西部戰線へ大部隊の增援を送りつゝあるらしい▲其の一方で佛軍は勝に乘じてドシ〳〵進んで居る▲前門の虎後門の狼如何な我慢强いカイゼルでも助け舟と悲鳴を上げるのも餘り遠くはあるまい▲天何時迄も逆者に與せんや歐洲最後も決戰も愈々近くなつたらしい▲英外相サー、エドワード、グレー氏は勃牙利が挑戰的態度を取れば英國は遠慮なく巴爾幹の友邦を助くべしと宣言した▲斯う開けつ放しに出られては順慶流の勃牙利も鳥渡獨墺に與するを躊躇するのだらう▲まあ〳〵武裝的中立と鎧を著けて門を閉ぢて居れば大した損はあるまい▲其れとも思ひ切つて協商側に參加し戰後にお隣りを少々頂戴して居れば可いではないか柄にもない事に手を出さぬが悧巧者のする事だよ▲此頃名士の入京陸續頻々殊に鐵道祝賀會に送迎に隙がない▲總裁の後藤男、前滿鐵總裁中村氏（是公）其れから前朝鮮鐵道管理局長官の古市氏、前鐵道院總裁仙石氏及び滿鐵總裁中村氏（雄次郎）が出席する相な▲斯う鐵道の總裁連が一時に集まつた事は未曾有だらうとの事である▲鳥渡日鮮滿連合だから面白い

▲技術者のみを以て組織せる理想的工塲▼





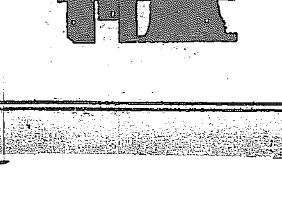
營業要目
一、吸入瓦斯機關
一、高壓無點火重油機關
一、高速度輕油機關
一、タービンポンプ
一、セントリフユーガルポンプ
一、一般揚水排水ポンプ
一、工業上の相談及工事上の設計監督



大阪府西成郡鷺洲町大仁一六五（阪神電車北大阪線大仁新道停留所北入一丁）
大阪機械工作所
電話土佐堀二七八九番

所長 技師 石光眞俊
支配人 技師長（香姓大阪）工學士 鶴澤一作
工務部長 技師 市川克己
船舶機關技師 工學士 仙波修三

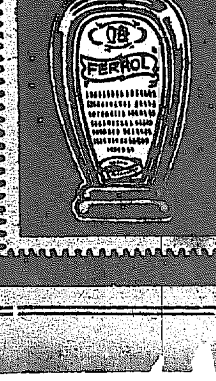
特約販賣店
名古屋市東區富士塚町 大隈麵機商會
佐賀市點合町 鶴澤麵機商會



▲技術者のみを以て組織せる理想的工塲▼

體育保全 補血營養
フェロール
非常の美味 非常の滋養
飲むに從ひ强壯となる
各病院諸大醫賞用

强壯新劑

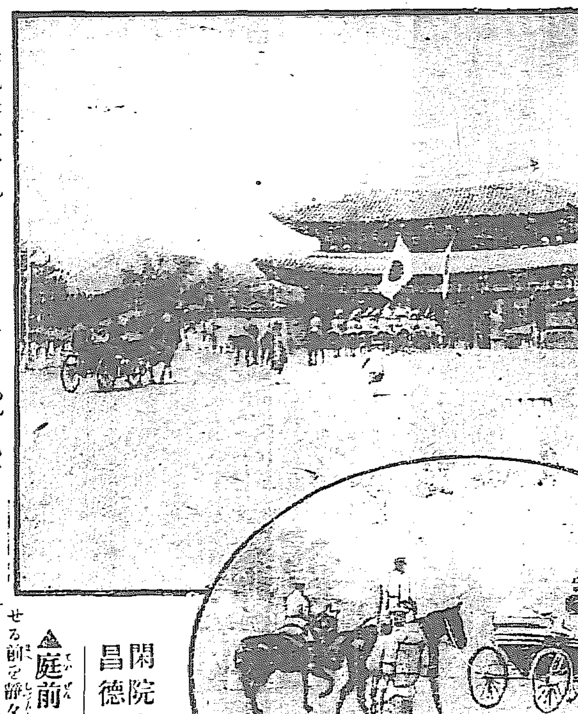


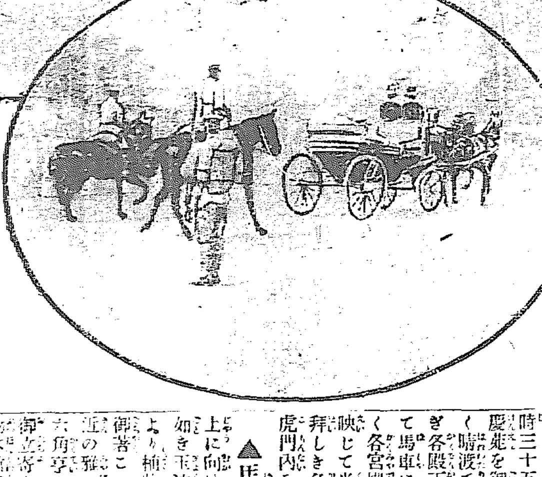
葡萄酒以上の美味にてアルコール分を含有せず御婦人達小供衆に適當
本舗 大阪道修町 小西久兵衛
●賣捌各藥店にあり◎賣捌店なき地方は本舗へ御用命願上候

代理店
京城南大門通 新井藥房
同 大平通 キムラ藥舖
釜山辨天町 大黑藥舖
元山港 石田濟生堂
木浦 木下藥舖
安東縣市場 井上藥舖

宣政殿裡の御歡會

閑院宮兩殿下昌德宮御訪問





閑院宮兩殿下昌德宮御訪問

閑院宮載仁親王同妃智惠子兩殿下には卅日李王殿下の御招待により午前十一時卅分龍山御旅館御出門午後零時廿分昌德宮に成らせられたり、此日煦々たる秋の陽光は御通路白砂を敷き清めたる街路に輝き渡りて里餘の沿道には御英姿を拜せんとする内鮮人人垣を築き銃劍を閃かせる軍隊の警戒、騎馬の憲兵、警官の警備など物々しく沿道奉迎の光景壯嚴を極めたり、聽て御馬車は坦道を轆轆として進めば儀仗騎兵の一隊は鐵蹄輕く先驅を仕り、紅白の旌旗を附けたる騎槍秋日に輝くあたり壯觀云ふ可らず、此時大將宮殿下には陸軍大將の正服を召され氣高き白色の洋裝に白き洋傘召されたる妃殿下と共に御附武官を陪へさせられたるが沿道最敬禮をなせる拜觀者に對しては懇ろなる御會釋を賜ひ其の白手袋召されたる御手を絕えず御帽子のあたりに擧げさせ給ひたるも畏き極みに拜せられたり、踵いで御馬車の後方には寺内總督始め文武高官の馬車にて扈從するあり終りに騎槍を捧げたる後驅の儀仗兵打つゞきたるが太平町通り德壽宮前にては堵列歩兵一齊に捧銃の敬禮を行ひて君が代の喇叭を吹奏し御馬車は光化門通りを鍾路大通りに右折し午後零時二十分昌德宮に御著あり

▲祕苑の秋色に御感興殊に深し

當日兩殿下を迎へ奉る可き昌德宮にては宮殿の内外清淨に掃き清められ敦化門前には高く日章旗を交叉し奉迎の準備全く成り午前十一時二十分山縣政務總監の馬車にて參向せるを首めとして李埈公同妃殿下には十一時三十分同じく馬車にて參著、それと前後して井口軍司令官、川村師團長、總督夫人、軍司令官夫人、總督府各部長官、兒玉局長、朝鮮貴族の重なる人々赤愛會關係者等馬車、腕車を驅りて參向し宣政殿に於て李王王妃兩殿下に謁し、閑院宮同妃兩殿下の御來宮を待てり、聽て十二時を過ぐる廿分、宮内に配置されたる憲兵の警戒殊の外嚴を加へ門内の儀兵列を正して捧銃し喇叭と響く

▲喇叭の音聞ゆる

と見る間に、先驅の騎馬憲兵二騎と分隊長鐵蹄の憂々勇しくつゞいて儀仗兵前後に一中隊兩宮殿下の御馬車に續いて龍山御旅宿迄御出迎へ申上げたる寺内總督その他扈從の人々の馬車最後に護衞の騎馬憲兵二騎、その後より森山、上村兩司令官以下隨ひ威儀堂々と敦化門より仁政殿玄關に向はせらる同玄關には李王同妃兩殿下、李埈公同妃殿下、山縣政務總監、井口軍司令官、川村師團長、總督夫人、軍司令官夫人等御出迎へ申し上げ總督府各部長官、朝鮮貴族第四戰隊司令官、赤愛會關係者等は玄關の北方に整列、李王職各高等官一同は玄關外側東方の

▲庭前に整列敬禮

せる前を靜々と宣政殿に御誘引あらせらるれば李王職音樂隊の奏する行進曲瀏喨とひゞきつ、かくて各殿下には宣政殿にて御會見の儀あり後各員に謁見を賜りたるがその御模樣を洩れ聞くに閑院宮同妃殿下には殿の北方より南面して設かれたる卓子左方に御著席あらせられ、右方の南方には李埈公、同妃殿下、左方南方には寺内總督その側近く通譯官、總督の後方に總督夫人、軍司令官夫人、その南方に山縣政務總監、軍司令官、川村師團長、その後方に閑院宮附別當、事務官、同皇室附武官、御用取扱侍女藤田式部官、吉田侍醫補、入口の南方に白井、森兩武官、兒玉局長、池邊、遠藤兩秘書官、大藤副官、野津副官、師團長副官、李王妃殿下の後方に内人、その南方に閔李王職長官、小宮次官、掌侍司長、李副將、玄事務官贊侍附武官各その席に就くや先づ閑院宮殿下隨行の各員

▲李王同妃兩殿下

に謁し兩殿下は前方に歩を進められて各員を接見あり次に閔長官以下李王職各高等官、王公附武官等は閑院宮同妃兩殿下に謁見し、夫れより各殿下御同道にて東行閣上の御室に御立寄りあり同所に整列せる李王職高等官を接見あらせられたりと之れより各殿下には寺内總督以下各員と共に仁政殿なる大食堂に御臨席あり、御宴は序曲マリタナの奏樂に始りて、開宴中は絕えず、舞曲『カルメン娘子』短唄『春雨』劇曲『トルバドール俳優』短唄三下曲、龍騎兵の驕歩曲等の奏樂あり、欣喜、瑜色宮の内外に漲るの盛あり、午餐を終るや、各殿下には陪宴の各員と共に西行閣樓上に御休憩あらせられ午後二時三十五分各殿下御同伴にて秘苑昌慶苑を御觀覽遊されたり時に空は全く晴渡て正午下の秋日柔に光を護ぎ各殿下には色麗しきパラソル翳して馬車に召させられたるいとも美しく各宮殿下の大將の御服嚴しきと相映じて光輝眼を眩せんばかりなるを拜しき各殿下には初め仁政殿より金虎門内を右に耀金門内を經て

▲馬車路を玉流川

上に向はせられこゝに御下車其名の如き玉流の幽溪を御觀覽あり、それより植物本館の前を經て演慶堂前に御著こゝよりは御徒歩にて六角亭附近の雅やかなる眺めを御賞覽あり、六角亭より再び御徒歩にて演慶堂に御立寄り暫時御休憩の上御乘車、植物本館『博物本館』御巡覽動物園をも御一覽の上三時四十分頃弘化門より御歸還遊されたるが、此間各殿下にはいとも御機嫌麗しき態に拜され、閑院宮殿下には特に植物本館の朝鮮古藝術の優れたるに御眼を止めさせられ御賞觀あり、同妃殿下にもとりどりの珍しき動植物、古美術に御感興いと深くおはせし樣に拜せられたりと漏れ承る、猶ほ兩殿下弘化門より御歸還の節には李王、同妃兩殿下、李埈公、同妃各殿下以下同門まで御見送りあらせられたり

◉京城神社の始政記念祭

京城神社にては十月一日午後七時より朝鮮總督府始政記念日祭を執行すべく定刻諸員の席定まるや嚴かなる修祓に次いで谷村齋主奏樂裡に御扉を開き奉り齋員神饌十臺を供し齋主祝詞を奏して玉串を捧ぐれば中村理事長其他の氏子總代並に參列諸員次いで玉串を奠じて拜禮あり神饌を撤し再び奏樂裡に谷村齋主御扉を閉ぢ奉り式を畢るなりと

◉開會式と觀覽者

一般觀覽者の注意

共進會開會式當日の共進會一般觀覽者は午前十時迄は迎秋門より入場せしめ光化門よりは入場せしめざることゝなれり、而して午後一時までは康寧殿、觀測館、參考美術館、博愛館及び勸政殿の一廊は觀覽せしめず、又た正午より一號館、東拓特設館、鐵道館、審勢館、第二號館、參考館、營林廠特別館、機械館並に美術館も入場せしめざるも其内一號館及び東拓特設館は殿下の御巡覽を終りたるときは此二館に限り一般の入場を許し一號館の前面非常口より出入せしむることゝなりたれば一般觀覽者は注意す可し

講師帝國飛行協會主事　澤柳海軍少佐

飛行大講演

今夜八時半より

會場京城日報社

（家庭博覽會入場者は聽講隨意）

◉祝賀準備打合

各町委員の參集

京城協贊會にて一日の共進會開館式に閑院宮殿下の御台臨を奉ずるを以て全市を擧げて祝意を表すべく晝間は旗行列屋臺其他假裝行列等をなし夜間は一大提灯行列を催すべく各町内の委員等と協議の上決定したる事項並に其他は二十九日夕刊に既報したるが此日は京城公會堂にても全力を擧げて各種の催しをなすべく又祝すべき佳日なれば協贊會にては各町内にも夫々準備中なれば此の大賑ひを呈することならんが協贊會にては三十日午後二時より各町委員を慶會樓に案内し最後に各種の打合會を催したり

◉朝鮮藥學會第三回總會

朝鮮在住藥業關係者を以て組織せる朝鮮藥學會は來る十月十日第三回總會を開催すべし同日は午後一時より京城永樂町二丁目總督府研究會講堂に於て諸名士臨席の上藥學に關する講演會を開き閉會後パゴダ公園内茶亭に於て懇親會を開催する由

◉卅日の試驗飛行

廿九日組立を終つた飛行機三重號は卅日午後龍山練兵場で試驗飛行をした。

（寫眞は飛行機前右に立てるは尾崎行輝氏、左は澤柳少佐）

◉奈良丸一行卅日夜乘込み

一日より有樂館にて

既報の如く浪界の泰斗吉田奈良丸一行は三十日夜釜山より乘込み翌一日より本町の新演藝館有樂館にて開演する筈なり同人渡鮮の噂は數年前より傳へられしも種々なる事情の爲め今日まで事實とならざりしを今回新田大正館主小島部長等が奔走の結果招聘したるものにて同人も近く退隱する筈なりと云へば恐らく再び渡鮮する事はあるまじ尚ほ初日の讀物は神崎の東下り及び天野屋利兵衛の二席にて備一行の讀物如左

金森源太郎	吉田花若
勸進帳	吉田日の丸
太閤記	廣澤正圓
乃木大將	吉田久菊
天一坊	吉田常春
天野屋利兵衛／神崎の東下り	吉田奈良丸

▲西鮮の舊都を訪うて行將に終らんとす

鉄道大競走

南行選手　別府八百吉

僕は三十日午前六時半南線にて平壤より鎭南浦に向ふ、沿線の田畝何れもよく稔り特に鎌入期に相近づきつゝあるを知る、午前八時三十分鎭南浦に著く、此の地は築港の竣工久原製錬所の設置並びに中村組の公共事業に五萬圓寄附せると朝鮮唯一の監綬章を授けられたる富田翁にて有名な土地である、滯鎭卅分にして平壤に引返したが途中の各停車場には秋知顏にコスモスが亂れ咲いてゐる十一時道廳に松永道長官を敬訪すれば大橋警務部長、篠田第一部長等席に在り、長官は僕を顧みて「オー君少し遲れた樣だね」と例の巨軀を搖り上げながら哄笑する、それより日淸、日露の戰跡を見る、牡丹臺、浮碧樓、練光亭さては碧波洋々たる大同江等平壤郊外の形勝地は東洋無比の稱あるが殊に最近高濱廳子の計畫になる諸舫の竣成によつて絕勝地としての名を高むるに至つた、かくて視察を終り午後一時半南行歸京の途に就く（三十日午後平壤發電）

▲厚遇を感謝す

平壤を三十日午後一時半に發したる列車は土井覆審法院長向井同檢事長松永長官其他官民の上京者を溢るゝ計りに滿載し車中の歡談湧くが如く車窓の外は秋空一碧拭ふが如く晴れ渡りつ茲に通信の最後に於て朝鮮滿洲臺灣の三地瞥見比較を試むる筈なりしも此は何れ他日に讓ることゝし予の通信は本稿を以て終るべし。最後に諸種の厚遇を垂れ給はりし沿線の各位に感謝す（午後二時京義線沙里院發）

一世一代御名殘り興行

浪界の泰斗來る

吉田奈良丸

初日の讀物

▲天野屋利兵衛

▲神崎の東下り

十月一日午後正五時より開演

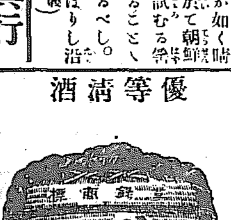
本町　有樂館

●基督教青年會記念式　朝鮮中央基督教青年會にては十月一日午後七時卅分より第十二回創立記念式を開催す

京城　内科　小兒科　入院隨意　京城日出小學校前　多々見醫院　院主　醫學得業士　多々見五郎　電話九四〇番

酒精アルコール　直輸入元　仁川花町（電話六五〇番）電略（サ）振替口座京城五八二番　坂倉伊平商店　京城吉野町二丁目（電話二四四一番）　坂倉伊平支店

優等清酒



福岡縣三井郡山川村　醸造元　富安本店　京城永樂町二丁目　發賣元　富安京城支店　電話一〇三九番

婦人科　產科　入院分娩應需　京城旭町壹丁目　院主　衣笠茂　中央婦人病院　電話二三四〇番

京城　梛屋旅館　本町（三越）裏通り　電話一一九四番　閑靜、丁寧、低廉　市の中央に在て諸種の用務を辨ずるに最も便利也

★株式會社百三十銀行京城支店　京城本町壹丁目　電話長五八番　振替貯金京城一一一三番　銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候　爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

資本金五百萬圓　頭取　安田善三郎

小兒科專門　内科　若槻醫院　京城旭町三丁目（元十全病院跡）　ドクトル・メヂチーネ　若槻寬隆　電話二四六三番

水也田旭嶺編纂　精流筑前琵琶歌音譜　筑前琵琶彈法書上下各卅五錢送費各六錢　春夏秋冬雪月花の卷各三十錢送費各二錢　京城本町一丁目　日韓書房　振替京城百拾五番

入院隨意　泌尿生殖器科　皮膚花柳科　外科　京城永樂町二丁目（金光教會隣）　安部醫院　診察時間午後九時迄　院主　安部修三　電話四一九番

醇良清酒　白鶴　仁川本町三丁目　増本酒店　電話一一九番　振替京城六一九番

院長　岡山醫學士　村上德一　内科　小兒科　婦人科　京城本町二丁目（電話七四二番）　京城醫院

●釜山に於ける農相

往年の所見に比し隔世の感あり 時運に遲れず半島の產業を開啓せよ

既報の如く河野農相一行岡本局長、月田事務官外三名は廿九日午前九時釜山著鐵道ホテルに休憩の後商業會議所に於て道長官より地方產業狀態を聽取し公立高等女學校視察の後農商務省直轄の牛疫血精製造所の視察を爲さんとしたるも風雨の爲め果さず午後六時より鐵道ホテル樓上に於て開催せる釜山官民有志の歡迎會に臨席し同席上に於て釜山官民を代表して佐々木道長官の歡迎の辭あり之れに對し河野農相は起つて答辭を述べて曰く

私は二十餘年前一回當地を通過して視察したる事あり、而して今朝入港と同時に直ちに感じたる一事は往年の所見に比し著しく山の青色を呈したる事なり而して棧橋に著するや出迎への官民諸氏が各階級を作せる之れを前年の一部領事館員及び或種の人々に限られたる時に比し全く隔世の感あり且つ市中に入りて殆ど

▲內地同樣 にして未だ母國を離れざるの感を爲す之れ當地在住我官民諸氏の努力の大なるを感ぜずんばあらず而してその發達はたゞに內地人市街なるのみならず

朝鮮人部落に於ても亦 異常の發達を爲し全く昔日と其面目を異にするに至れり學校及び其他の教育機關の如きも中學校迄は全く內地と變りなく殊に其の成績は內地に比して優れたるもののありと聞く諸君今回の歐洲戰亂は我が日本に取りては實に其の蒙る處の打撃少なく得る處大なりと云はざるべからず

▲我海陸軍 は一擧して敵を粉碎し東洋の安靜を保持するを得一時非常の窮迫狀態に陷入りたる輸出入貿易も一歩々々に緩和せらるゝに至り一時の輸入杜絶は却つて之れが爲め我國の各方面に覺醒を與へ實際科學の進步を促すに至れり戰後に於ける我が貿易は著しき發展を爲すに至るべく諸君は此の時運に遲るゝ事なく海に山に野に半島の產物を充實する事に努力せられ度し

一行は三十日午前十時三十分發列車にて京城に向ひたり(釜山支局)

●冬期と牛の凍死

注目すべき斃死數

平南にては一面畜產の改良增殖を圖ると同時に他方之れが斃死を防止するの必要を認め獸疫豫防に關する訓示を發せること別項の如し尙ほ道當局は寒に起因する斃死に就き語りて曰く大正三年より本年に亙り寒に起因し斃死したる畜牛の數は(イ)凍死牛數三百四十七頭、內譯成牛四十三頭犢三百四頭(ロ)營養不良其他疾病に罹れるもの、寒に原因し斃死したる牛數九十四頭、內譯成牛二十三頭犢七十一頭にして斃死の時期は大正三年は十二月九十一頭大正四年は一月に二百二十一頭大正四年は二月に百三十頭凍死の原因は大正三年十二月以來本年二月に亙る氣溫は左表の如く甚しく低下し稀れに見る酷寒を呈し殊に寧遠、孟山の二郡にありては本年一月十七、十八の二日間に於ける最低氣溫は攝氏零下二十四度より三十三度に達し陽德、安州の二郡にありても零下二十六度五分平壤府に於て零下二十三度に達し各府郡を通じて

人畜の死傷したるもの 尠からざりし然れども酷寒に曝露し凍死したるは比較的少數にして多くは左の如き狀態にありしもの酷寒に遇ひ凍死したるが如し

(イ)貧農所有の畜牛が冬期飼料の給與不足し營養不良衰弱に陷りたるもの(ロ)秋期劇役に服し疲勞尙恢復せざる內冬期飼料一層不足し(ハ)營養不良の犢を屋蓋なき牛舍に繫養せるもの(孟山寧遠二郡地方の貧農家にあり)(ニ)畜主にして甚だしく亂暴なる飼養管理に放棄せるもの(ホ)營養不良の牝牛より冬期生產したる犢にして母乳不足せるもの(ヘ)劇役後積雪中に長時間佇立

依之觀るも冬期飼料の豐充 冬期牛舍の改造冬期の分娩回避等は特に凍死の豫防上必要と認めらる

自大正三年十二月至大正四年二月平壤府外二郡氣溫表

府郡名	大正三年十二月 最高	最低	大正四年一月 最高	最低	大正四年二月 最高	最低
平壤府	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安州郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同上	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
陽德郡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同上	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

營養不良其他疾病に罹れるもの、寒に原因し斃死したるものは概ね左の如き狀態にありしもの酷寒に遇ひ其死因を爲したるが如し

(イ)犢の慢性下痢等の消化機病に罹り衰弱せるもの(ロ)感冒等の慢性呼吸器病に罹り營養不良となり衰弱せるもの(ハ)破氷溺水したるもの

●練武の日

兩軍已に軍事的行動に入る

大同江流域に於て西鮮未曾有の大演習擧行さるべきこと既報の如し當日の參加部隊は平南北及び黃海三道の守備隊の一部千數百名にして既報の外統監部及び兩軍に所屬すべき

▲憲兵隊の部署 は當時も恰かも隊署長會議の爲め所定の如く將校の參加を許さゞるも統監部には江東分遣所の山口軍曹佐藤上等兵練屬し北軍附は順川分遣所の井村伍長、東谷上等兵及び憲兵補助員三名、南軍附は成川分遣所の白檀地伍長率田上等兵及び補助員三名尙ほ演習地域內の憲兵及び同補助員は山口憲兵隊長の指揮の下に參集することとなり何れも期日の切迫と共に骨鳴り肉躍るの想をなせり

▲戰線頗る廣汎 なる爲め遠隔なる部隊は已に廿七日以來軍事的行動に入り其他の部隊も引續き行動を開始せるが、平壤軍は二日出發すべく統監部は四日移幕の模樣にて全部戰線に入るは十月三日頃なるべく、斯く南北兩軍漸次接近し來り愈々劍火彈雨の

▲接戰は翌四日 成川、江東、順川及び順安と地圖に線を引かば稜則なる四角形を成す此附近の某所に於て火蓋を放され五、六の兩日某々所に於て大隊對抗演習を行ひ七日は分列式を擧げ其夜某所に露營の夢を結び翌八日聯隊假設敵に對する大演習を試み各部隊に歸屬する豫定也

別府南行選手歸著

今三十日午後七時卅分南大門驛著

別府南行選手は豫定の線路を踏破し愈よ今夜七時三十分南大門驛著汽車にて歸著の豫定也

●國境軍の演習

北鮮羅南、會寧其他國境第一線駐屯の各科隊二千有餘の貔貅は步兵第六旅團長首藤少將統監の下に二十九日より十月二日迄四日間輪城平野に於て秋季聯合演習を催す筈にて各地守備隊長は何れも二十七日迄に集合地點に集中行動を終り二十八日行軍を開始し二十九日より四日間豫定の演習を擧行の筈なり

●日の出商行と共進會繪葉書

京城本町三丁目同行にては今回共進會に付各種組合せ繪葉書を發行せしが同店は朝鮮有數の繪葉書店にて共進會場の諸建設物等の寫眞は鮮明なるコロタイプにて一見壯大なる共進會場の美麗なる光景を詳知さる物を網羅せり八枚一組二韓として一組の代金十二錢也▲京城協贊會發賣に係る記念繪葉書も發賣を引請け同店にて賣出せしが石版數度刷美麗精巧一組定價十二錢也▲日本赤十字社愛國婦人會朝鮮本部の發行に係る記念繪葉書も高尙優美の出來上りなり是亦同店の專賣にして一組定價十錢なり京城協贊會演藝館に於ける藝者演の御代のさかえ、ついのよるべ等は五枚一組十錢の安値にて記念の爲め賣出せしに多大の注文あり同店は東京に工場を所有し尤も進步せしコロタイプ美麗なる印刷にて普通有振れたる品と異ひ居れば發賣以來各種共注文山の如く應じ切れざる有樣なる由其他十月一日よりは郵便局にて始政五年記念繪葉書を發賣する由也

●飛行大講演會

家庭博入場者空前の特權

帝國飛行協會飛行家尾崎行輝氏の飛行は愈々十月一日から行はれる我社はその前夜即ち三十日午後八時半から家庭博覽會後庭に於て飛行觀覽者に與ふべく『飛行界發達と其將來』なる演題にて帝國飛行會主事海軍少佐澤柳猛雄氏の講演を請ふ事となつた、澤柳少佐は飛行機に關する日本有數の學者である事は人の知るところである、同氏今回の講演は今日航空機は如何なる發達を爲しつゝありや、其の構造は如何、操縱術は如何、然して之れが軍艦の如く汽船の如く汽車の如く發達し全く人間の力に依りて征服し得るは今後幾許の時日を要すべきやの諸問題に就いて最も明快に平易に講述されるのである、家庭博後庭の露臺上より後庭に數十條の銅線を張りて音聲の反響を十分ならしめたれば餘程遠距離にある聽衆にも極めて明確に聞き取り得べく講演場たる後庭には優に二千人を容れる事が出來るのである、然して同時刻家庭博に入場した人は當然後庭に出てその剴切にして有益なる講演を聽く事が出來るのである、斯の如き大講演は今日の機會を失してよく之れを聽く事は出來ないのである、心ある士は家庭博見物旁々是非來會されたいものである

商況

東京株式特電

	三十日前場寄付	大引
日本郵船	一七、八〇	九一、七〇
日糖新	九二、九〇	九二、九〇
鐘淵紡	[illegible]	[illegible]
新株上場	[illegible]	[illegible]
日本製糖	一五〇、二〇	一五〇、二〇
東株第一	一一〇、八〇	一五〇、三〇
東株第二	一二七、七〇	一二四、五〇
東株第三	一二四、五〇	一二四、五〇

東京期米特電

	三十日	後場
十一月限	一六、四五	[illegible]
十二月限	一六、六五	[illegible]
一月限	一六、六〇	[illegible]
二月限	一六、二〇	[illegible]

債券現物特電

三十日現物高(前日との比較)

東洋拓殖	[illegible]
日韓瓦斯	[illegible]
朝鮮銀行	[illegible]
朝鮮瓦斯	[illegible]
京城電氣	[illegible]

深川在米特電

肥後米	二四、〇〇
秋田米	[illegible]
三河米	[illegible]
備中米	[illegible]

公債直取引

三十日出來値段(前日との比較)

五分利	五六、六七	八〇
四分利	六九、五五	七〇
整理公債	九九、九三	九四
東京市債	[illegible]	〇〇〇

大阪株式特電

銘柄	拂込	三十日前場	後場
東洋紡	吾〇	[illegible]	[illegible]
大阪紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
攝津紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
尼崎紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鐘淵紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日本紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大日本紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪商船	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東洋汽船	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪米穀	[illegible]	[illegible]	[illegible]
阪神電鐵	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京株式	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪株式	[illegible]	[illegible]	[illegible]

大阪期米特電

	三十日前場		
當限寄付	二一、六〇	此	二二、六〇
中限寄付	二一、五九	め	二二、八六
先限寄付	二一、九一		二二、八六

下關期米特電

三十日前場

寄附	二一、二三	二一、六〇
高値	二一、四〇	二一、五四
安値	二一、四〇	二一、三五
引け	二一、四〇	二一、三五

盛り氣盛高し北安の爲め賣氣旺盛

雜報

●玫馬糖の低落 最近の相場は二兩八十五仙をなし之を前年に比し十五仙半の低落なり

斯く低落の原因 は從來同糖は特惠的低率關稅な納付が同糖保護の爲め同糖に丈け僅か課税よりも特惠的低率關稅を課したりしを今度廢止して各國の輸入糖と一樣の稅率を以て取扱ふ事となりたるが爲めなりと

●牛皮の急變 牛皮既報の如く大阪筋の新手買を加へて其後日々活況に向ひ相場は最近七斤牛込みの七十圓より七十一圓 迄昇騰したるも其後先買に鞘取を計りし爲め反動的に商況は俄然人氣の一變を來して一氣に二圓方の低落 外にも暗へ行きたる理由は目下滿洲中の大阪筋手元に何れも皆合せたる如き不况なりと云ふべきは現在既約の ロ注文の未だ纏まらぬ原因 中の大商談中の大口注文の未だ纏まらざるが爲めなり

下關相場

▲朝鮮白米は不引立 其後百六十八入の輸入に過ぎざるのみならず依然不引合を唱へ各米主安く手放し兼ね居れり

(以下 [illegible])

△朝鮮一等白米(當用)	十三圓七十錢
△同二等白米(當用)	十二圓八十錢
△同	十二圓四十錢
△釜山新麥大豆	九圓三十錢
△密陽新大豆	九圓四十錢
△元山大豆上品	九圓八十錢
△龍山大豆上品	九圓四十錢
△同胞上品	九圓二十五錢

京城正米

今年の出廻り期は地廻りのみならず治線其他地方を通じて同樣なる如く鮮盆前に於て ... (以下 [illegible])

●籾米更に引締む ... [illegible]

十錢方の高唱 ... 一圓九十錢乃至十二圓 ... [illegible]

一定價表御送附 仁川米豆取引所仲買人 田中金治郎 仁川府仲町三丁目 電話一五六一番

●綿糸は漸騰 綿糸は原棉の ... [illegible]

平票十一角王 ... [illegible]

●五倍子出廻遲れ ... [illegible]

黃海道物の出廻 ... [illegible]

多少出遲の觀 ... [illegible]

●大福新豆初荷 北海 ... [illegible]

七八十錢 ... 人氣の沸騰激甚 ... [illegible]

南大門の廻米

沃川玄米	一九二叺	一山麥	一二叺
平澤玄米	一九七叺	一山白米	四五叺
水原白米	一九叺	天安粳	三五叺
西井里白	一八叺	平澤白米	六二叺
平澤白米	七一叺	平澤大豆	一八叺
平澤玄米	二一叺	水原白	一九叺
小井里白	二一叺	水原大豆	六二叺

仁川現物市場

精米筋へ望み取 ... 千五六百叺各 ... [illegible]

生魚市場

著荷數は谷山馬山統營仁川群山の順序にて總數は前日より少く ... [illegible]

仁川期米

△三十日前場 ... 八十一錢と安移 ... 買物多く ... 大阪六節 ... [illegible]

市場零聞

▲前場の商戰 ... [illegible]

▲前場は不勢 ... [illegible]

▲小範圍の平穩 ... [illegible]

▲新甫の氣配 例年多少の上 ... [illegible]

▲無鞘又は多少下鞘 ... [illegible]

▲受米移出說 ... [illegible]

▲愈調談の運びに至り ... 近日より移出に著手 ... [illegible]

仁川米豆取引所

三十日の十一月限

	前場	
寄附	八圓八十八錢	
二節	八圓七十四錢	
三節	八圓八十六錢	
四節	八圓八十一錢	
五節	八圓七十八錢	
高値	八圓八十四錢	
安値	八圓八十二錢	
〆	八圓八十一錢	
出來高	一萬七千五百石	

平均値段

	買賣取組高
九月限	千四百五十石
十月限	七千百五十石
十一月限	三萬八千百石

	廿九日後場出來値	前日比較
寄附	八、八七	七安
止め	八、八四	六安
高値	八、八七	三安
安値	八、八一	五安

處分一段落 該受米の ... [illegible]

北濱だより

▲日糖株 種々なる惡材料を唱へられて不評 ... [illegible]

▲大阪商船株 船株は ... [illegible]

青物だより

昨今雜菜出盛の旺盛に少なからぬ日々の出荷も極めて順調に消化せられ之と共に秋物さしての出廻りの漸增に連れ當然價格の下落を見るべき筈の物も之が爲め高値を維持しつゝありしが其の後値高の爲め出廻り一層激增し前報後市場は漸次過剩の出荷を睨めて氣崩れを催し一般相場の暴落を見るに至れり中にも大根朝鮮葉胡瓜は約半値豆類は三割安にて下落の位にも稍々割高を示せるは新甫薇等位に過ぎず

マツタケ	八五〇	エダマメ	三五
サヤマメ	四五〇	カイワリ	一五
インゲマメ	四〇〇	ミツバ	一五
フジマメ	四〇〇	ハツカミ	六〇
クワイ	一五〇	キノメ	二〇〇
レンコン	八〇	キウリ	二〇
コリ子	二五〇	ナスビ	二五
ハナマル	二〇	ダイコン	二五
小ナス	三五	コイモ	二五
ミヨガ	五〇	ニンジン	二五
サラダ	五〇	ゴボウ	二五
トマト	一〇〇	ツタイモ	一三〇
パセリ	一〇〇	ナガイモ	八〇
フキ	二五	タマ子ギ	五〇
ホウレンソウ	四〇	シンギク	三〇
ナツパ	一五	シヤクシナ	一五
ミヅナ	一五	フダンソ	一〇
タマナ	四〇	チサ	四〇
ワケギ	二〇	カブ	二五
子ギ	二〇	シヨガ	七〇

小賣白米

一等白米	十二錢五厘
次白米	十二錢

京城府告示第十一號

本町警察署管內ニ於テ秋季種痘及檢痘ヲ左記日割ノ通リ施行ス依テ生後九十日以上ノ未種痘者及種痘善感後五年ヲ經過シタル者並ニ初種ノ不善感ナリシ者ハ各其ノ集合區域ノ施行場所ニ就キ種痘及檢痘ヲ受クベシ

但當日雨天ノ時ハ所定最終日ノ次ニ繰下施行ス

大正四年九月二十五日

京城府尹 金谷充

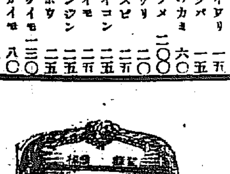
大正四年秋季種痘檢痘施行日割表

種痘 施行月日	施行時間	場所	集合區域	檢痘 施行月日	施行時間	場所
十月一日	自午前九時至午後四時	御成座	古市町、吉野町一、二丁目、南米倉町、南大門通三、四、五丁目、御成町、蓬萊町一、二、三、四丁目、和泉町、西界洞、中林洞、蛤洞、漢芹洞、義州通一、二丁目居住ノ內地人	十月八日	自午前九時至午後四時	御成座
十月二日	仝	仝上	同上朝鮮人			
十月四日	仝	浪花館	西小門町、大平通二丁目、長谷川町、北米倉町、南大門通一、二丁目、旭町一、二、三丁目、明治町一、二、三丁目、永樂町一、二、三丁目、本町一、二丁目、南山町一、二、三丁目居住ノ內地人	十月十一日	仝	仝上
十月五日	仝	仝上	同上朝鮮人			
十月六日	仝	開敎院	永樂町二丁目、若草町、本町三、四、五丁目、倭城台町、壽町、南山町三丁目、日出町、大和町一、二、三丁目、和町、東、西四軒町、並木町、櫻井町一、二丁目居住ノ內地人	十月十四日	同	上
十月七日	同	上	同上朝鮮人			
十月十二日	同	黃金館	黃金町三丁目(自三番地至二九番地)、四、五、六、七丁目、光熙町一、二丁目、初音町、芳山町、花園町、林町、笠井町一(自一番地至二一番地)居住內地人	十月十九日	同	上
十月十三日	同	上	同上朝鮮人			
十月十五日	同	黃金町二丁目派出所	水下町、南大門通一丁目、黃金町一、二丁目、同三丁目(自一番地至二番地)、九四番地至三五〇番地、長橋町、水標橋、笠井町(自二一番地)、大平通一丁目、四番地、貞洞、三角町、武橋町、茶屋町ヲ除ク二、三、四番地居住內地人	十月廿二日	同	上
十月十六日	同	上	同上朝鮮人			

貯蓄預金 壹錢以上何程ニテモ御預申候 元金百圓ニ付日步壹錢四厘

株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社 十八銀行京城支店
京城黃金町電話四二〇番、五八〇番 振替貯金口座京城八一四番
同 龍山出張所 龍山地櫓町電話一八番

諸預金貸付爲替等銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候



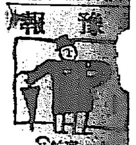
攝津灘 大塚釀造所吟製
京城本町四丁目 發賣元 前田酒店 電話一二三七番 振替口座四二五

贊化病院 京城本町二丁目 電話二四二番

入院隨意 普通病室並隔離病室
院長 醫學博士 古城憲治
尿。便。血液。咯痰等臨床的檢査の依賴に應ず(每日五名を限り無料施療す)

●連絡船上陸客 二十九日午前入港新羅丸 一二等客

廿九日夜高麗丸上陸客 (一等客六十二名)



豫報

大岡政談 越後傳吉

第百六十九席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

新之助は青天白日の身と相成つて幸手へ立歸つて參りまして久々で親父の藤右衞門女房のおきみに對面する、互に喜びは申すまでもございません、互に無事を喜び盡ぬ物語りに夜を明す、乾兒一同も大喜びでございます、所が越後高田に於ては領主戸田能登守忠眞仔細あつて下野國河内郡宇都宮へ國替御付られ、松平越中守定賢侯代つて高田へお乘込に相成る、此方は名君でありますから政事も行屆き御民一同大ひに喜んで居ります、併るに越中守殿實田村の名主井上傳吉先年和泉河原の堤防を成就して村民の憂を除いた、其外非常に功勞があるといふ事をお聞になつて改めて傳吉にお目通りを仰付られ御賞美のお言葉あり尚又種々傳吉の履歴に就いてお尋ねがございました、傳吉が大岡越前守殿の御決斷によつて冤罪を免かれた次第を詳しく申し上げましたから越中守殿御聞になつて御感心遊ばしました、越中守殿は大岡越前守とは格別の御懇意、豫ねてより越前守の器量を信じて居る方でございますから感服をなされ傳吉にも厚きお言葉を下されました、其後傳吉も度々伺候して御話を申上げる、後に傳吉越中守殿の御供をいたして江戸へ出府いたし大岡越前守殿の御屋敷へ伺つて先年の御禮を申上げる、越前守殿もお喜びになつてお目通り種々お話をなすつて度々參るやうといふ御仰せ、傳吉も有難く存じまして之から度々御出入をする、其中荻生徂徠、室鳩巢、青木昆陽などゝいふ當時一流の大學者と懇意に相成りまして其屋敷へ赴いて種々の話しを聞く、傳吉も固より學問もして居りまして論語や孟子は讀んで居りますから一通りの話しは出來る、そこへ荻生、室などいふ先生が深遠なる學問を說いて聞かせましたから傳吉も大した學者になりまして、倅の傳之助二男の傳次郎といふ二人の子供を室鳩巢先生の門下に入れて學問をさせました、室鳩巢先生名は直淸、通稱を新助と申しまして、加州金澤の生れで、木下順庵先生に就いて學を修め、新井白石の推薦に依つて八代將軍吉宗公に仕へました、白石は前申上げた通り大學者ではあるがあまり京家の儀式に拘泥して武家政治といふものゝ本體を忘れましたため吉宗公がお嫌ひになつて鳩巢をお用ひになつた、鳩巢は白石と反對で非常に勸儉を旨として荻生徂徠と共に幕府政事を助けました、徂徠の六諭衍義抄譯と後に鳩巢が箋を加へた六諭衍義和解之は其頃名代の著書であります、また青木昆陽といふ人は通稱文藏といつて元江戸の商人でございましたが京都へ往つて伊藤東涯先生に就いて學問をいたし、江戸へ歸つて新井白石の推薦で幕府へ仕へ、書物奉行と相成りました、其後吉宗公の命に依つて長崎へ赴むきまして蘭學を學び、琉球へ渡つて琉球芋といふものを持つて參りまして栽培いたしました、大岡越前守が青木昆陽の栽培いたした琉球芋を見て、之は結構である、此頃のやうに饑饉の續く折には之を多く食物にしたら宜しからうといふので將軍に申上げて各地に栽培いたしました、傳吉も之を領分に持歸つて栽培いたし、尚又青木昆陽と相談をして藥草の栽培をいたしました、昆陽と傳吉が藥草を栽培して成績が宜い所から上へ申上げて小石川に七地を頂戴いたし、之盛んに植物を培植いたしました、之を小石川御藥園と申します、只今の植物園の事でございます、此外傳吉は養蠶及び製糖の業を起しまして非常に殖産興業に盡力いたしました、されば後に至つて吉宗公の御目通りを許され、改めて士分にお取立に相成り二百石を賜はりました、傳吉の倅傳之助は父の跡を繼いで益々興業殖産に力を盡す、傳吉は村へ歸つて村内の者を集めまして『さて皆さん毎度申上げる樣でございますが勸儉といふことは何より大切なことで家を興すも損する、大きくいへば國家を興すも亡ぼすも皆さんの心懸け次第でございます、昔し北條相摸守時賴公が執權であつた時に靑砥左衞門藤綱といふ奉行があつて非常に儉約といたしました 〇『ヘイ』

大割引 自動車

新羅一千年間の舊都(朝鮮慶州の奈良)に遊べ 京釜線大邱驛より更らに一時間快走タツタ二時間にして迎日灣浦項港に達す

演藝案內

詩館 壽町 電話一〇五〇
來る十月一日より二日間晝夜正六時開演 ▲橘流〇鶴崎流筑前琵琶演奏大會
出演者 玉泉水鳥、中谷霞洋、水浪鳳操、藤谷雪香、宮谷旭蓮、林霞秀、吉岡旭晴、檜垣天鳳、高木旭旬、內田霞然、中野旭雪、妹尾旭鳩、江島旭翠、坂井旭水師、服部霞泉師、東原旭扇師…
主催 關西琵琶評論朝鮮支社 傍聽隨意

世界館 黃金町 電話一四三四
當る九月二十五日より ▲松旭齋天洋師出演▲世界的大魔術 ▲共進會特別興行▼毎日午後七時開場 土曜、日曜、は正午開演

浪花館 明治町 電話二六〇番
◎浪界の新強樓鋼京山若丸一行 ◎今晩の讀物 ▲西郷南洲▲飛行機(京山若丸)

佐久良座 龍山
當る十月一日 前狂言『三國湊三人新兵衞』大序より大詰迄 中狂言『セツ州合邦辻合邦』住家之段 切『一閑半物語』新作事
入場料 特等一圓、一等七十錢、二等五十錢、三等三十錢 毎日午後二時開演仕候

御成座 本町 電話一二九一
第十九回特發迎 一〇 女高知山 全六場 一〇 豫備病院 全四場
▲登場人名 伊伎美次郎、石黑史郎、桂木時夫、川上一明、芳川秀夫、吉川操、藤井隆之介、富士田藤野謙之助、西田君夫、池繁一、清川二郎、白川一志、日野嵩兵衞、小役木田細子

大正館 櫻井町 電話八七三番
當る九月三十日より寫眞全部差換 ▲寫眞士目モルヒ海 ▲喜劇ジヤフレスの幸運 二卷續き ▲滑稽醜ろき沼ゆき ▲日活會社關東撮影品江水の傑作 ◎新派大悲劇『俠妓花吉』全三卷 ◎現代の花柳界に如斯義骨ある俠妓花吉の如きあり、や是は誠に疑問? ▲佛國エクレール會社大作 ▲泰西探偵大活劇『怪しき銀行』全二卷 ▲日活會社關西撮影所苦心の作 〇舊劇『女太閤』全三卷六十八場 ▲豐臣の遺子駒姫は川の天下を呪ふて新根山の仙女より妖術を授かり、男然現れ來る三勇士は何者ぞ、亞思の姦悖の姫を扶けて如何の活動をなすや長へに太平なる千代田城內、時ならぬ騷擾起り渡り蜀大動地の大怪變を顯出すると云ふ松之助得意の大活劇

黃金館 黃金町四丁目 電話二六三七
天然色活動寫眞會社朝鮮一手代理店
●九月二十八日より特別大寫眞 し寶寫亞朝比亞の風俗〇滑稽幻燈會〇喜劇トンミーの運命◎伊國リツク會社特作泰西大活劇『水中王』(原名誘惑)全三卷發明家ジヤツクは最新式の魚形水雷を發明して試驗の爲め運搬途中無頼漢ジエームスに奪はれ身は囚はれジヤキの許嫁ルシー家中の秘所に幸ひ救はる後にザエームスの手に捉れしが逃れてジヤツクを救く、趣味深き大活劇なり〇怪談百代谷の樓全四卷續き、天活會社代表的作品にして四谷怪談等の比に非ず……納富家の庭園に千年來傳はる古楓木あり富士家の風を害すさて截らしむ下僕仁助之れを諫むれども肯かず……霊風一閑偶然枝は三つに割れ白衣の生靈は先づ娘百代に崇り都富家は全く赤兒を殘す外悉く慘死し幸にも妻子二郎の兄一郎の至誠に由り漸く家名と相續人のみを取留めたり見るからに肌に粟を生ずる怪物悲絶の怪談寫眞なり……恐ろしき怨の生靈?靈の手?

有樂館 本町 電話二六六
新築落成 今般共進會開會を好機とし浪界の泰斗吉田奈良丸を招聘仕り十月一日より五日間本町有樂館に於て開演可仕候間何卒賑々敷御來場被下度奉願上候
九月三十日 京城奈良丸會
●當る十月一日初日の讀物 ▲金森宗太郎(吉田花若) ▲勸進帳(吉田日の丸) ▲太閤記(廣澤正圓) ▲乃木大將(吉田久菊) ▲天一坊(吉田常春) ▲天野屋利兵衞 ▲神崎の東下り 吉田奈良丸
●毎日午後五時より開演仕候●本會に御用の節は櫻井町一丁目朝田商會部(電話五七〇番)へ御申越し被下度候
▲入場料 特等一圓六十錢、一等一圓二十錢、二等八十錢、三等四十錢 小供割引なし

賞讃を博せるマラリヤ持効丸本年は例年の倍數製劑仕候處八月末に全部賣盡し更に多數製劑仕候有樣にて是れ全く各位の御愛顧の賜と深く御禮申述候尚ほ此上とも品質本意を主旨とする當房各製劑品マラリヤ持効丸同一に御引立程奉願上候
龍山(電話三三番) (H) 林藥房

大正五年男女 運勢
九星易學 陶宮家相 骨相速成 教授〇規則要二錢 東京本郷眞砂町三 陽新堂

最もよくきく松本の ぢの藥
內用 ぢせんやく 外用 ぢ痔疾丸 用 痔瘻膏 十五錢 五十錢 一圓 三十錢
本舗 東京日本橋區本町 製品問屋 松本長春堂

關西琵琶評論朝鮮支社 主催
▲橘流▲鶴崎流 筑前琵琶大演奏會
出演者 東原旭扇師 服部霞帛師 坂井旭水師 外拾數名
日時 一日 二日 午後六時開會
會場 於壽館

松岡旅館 親切町寧 客室完備 平壤大和町 電話三〇五番

東洋ボツクス製編上靴 第一號一圓九十錢均一 編上、深ゴム 第五號二圓廿五錢均一 第二號二圓五十錢均一 第三號二圓八十錢均一 第三號特別製七十錢増
右の均一靴は精選せる材料と熟練せる技術を以て最も入念に製造せしものにして最上なる事を確信致し紳士靴として最も正確なる足袋(?)の寸法を御注文の節は正確なる寸法御記入被下度候甲高の御方は御申越しありたし〇定價は送料十五錢〇引換は御注文一足に付五十錢
三倉商會高等靴店 東京市本鄕區東片町九十二 振替東京二〇五三九

模範 牛乳 純粹培養 ヨーグルト
東亞牧場 京城西大門通四町 (電話三五二番) 太正塚肥醫獸主場

五度 無上の光榮を拜す
眞に我が化粧品業界の名譽なり
(本年六月) 畏くも 皇后宮職御用 の恩命を賜はれり
を以て又復た
クラブ香油 クラブ白粉 クラブ歯磨 クラブ洗粉 を始め クラブ化粧品一切十八種 に對し
謹みて其の光榮を錄し奉る
日本名物 賞御料

白粉でふく生地でふく
ホンノリと上品に色の白い方を御覽になつたら其れは皆んな今度出來た新化粧料
レートフード で化粧の方です
レート化粧料本舗 東京・大阪 平尾賛平

◎保險案內の御請求を乞ふ
太平生命保險株式會社
京城支部 (京城黃金町二丁目) 電話一四二〇番

京城日報
年中無休刊
（日曜日休刊せず）

穆々良朝

回顧すれば星霜茲に五年を經たり。一衣帶水、依然相倚り、民情昆弟の誼に在りし扶桑槿域が、倶に進み近づきて遂に渾然融合して以來、偏へに皇威の偉烈に頼り、時運の好機に投じたるが爲めに、過去五年てふ短期間に於てすらも、半島の治績は日進月歩漸を逐うて顯著なるものあり。見よ、積年の弊習は一掃せられ、司直は公平に、朋黨比周の弊、火賊横行の害は殆ど其蹤を斷ち、産業は勃興して山野青丹を濃かにし、禾穀豐饒、運輸徂徠の方法は簡易となり、人智は啓發せられ、民の福利は增進す、眞に是れ人心悦び天意從ふの狀、敢て辭を飾り誇稱するに非ず、實相は之れを景福宮裡の共進會に探りて其の趨勢を審かにせば思半に過ぎむ。始政五年記念朝鮮物産共進會は絶好の機會を以て畏くも聖旨に依り閑院宮兩殿下の御台臨の下に本日其の開會式を擧行す。打ち集ふ內外朝野の代表者は雲の如く、踏舞萬歲の聲は十三道に響應せむ。而かも其の斯くの如き所以、洵に聖代の恵澤に依り然るのみ。華を見て實を忘るゝ莫く、時運の盛なるを欣び而して勤儉協力更に斯の半島の開發の步調を速かならしむるに努むべきに非ずや。

大共進會

出品概觀（十一）

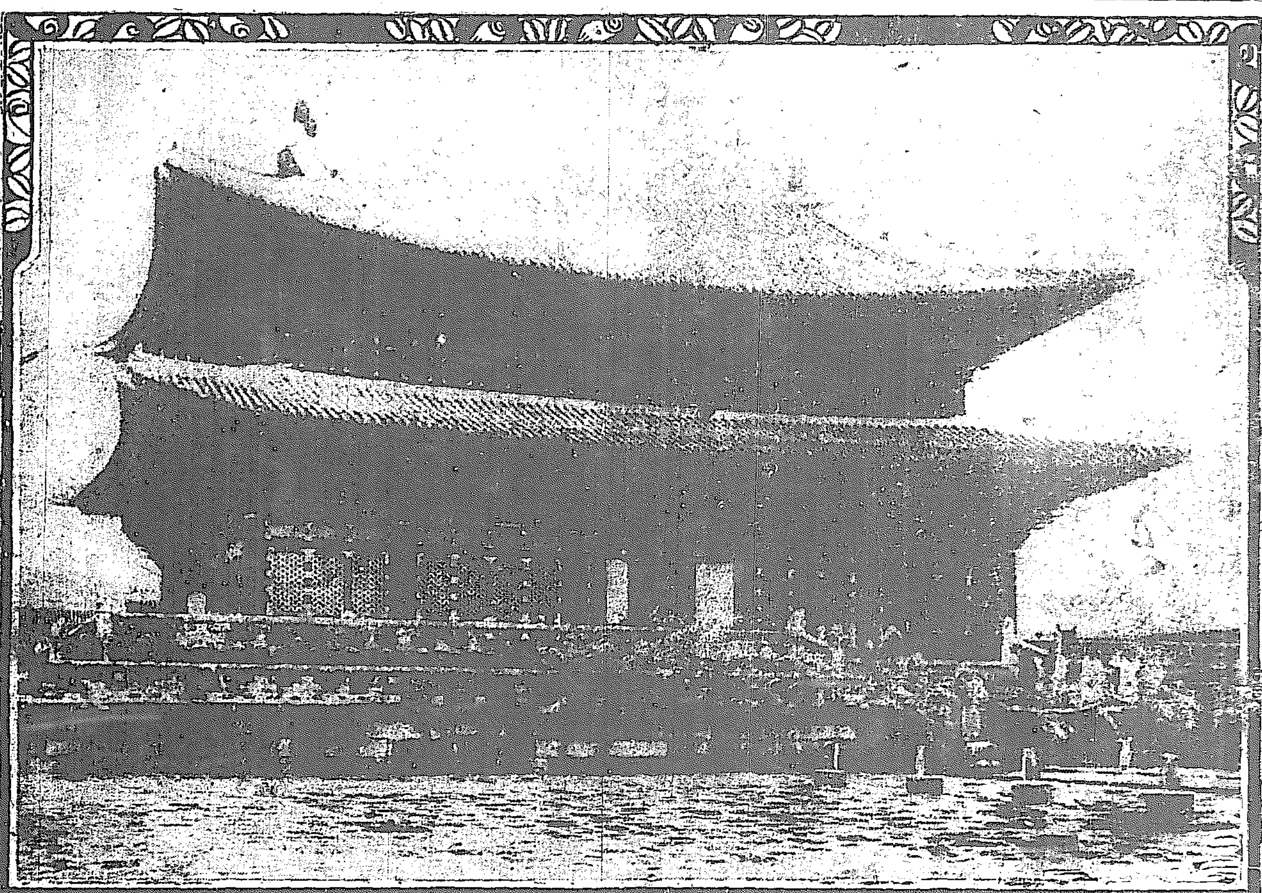
第一號館（工業）

▲木竹製品と紙類　第二十六號木竹製品には中央通路の……應接室の北手に當りて數個の陳列棚を飾れる莞草製品に朝鮮の特產品として最も多大の前途あり早晚物產中の會出品の如きは觀覽者の見逃す可からざるものなる可し　又之れに近く第二十七號紙及其製品を陳列せるが……

正面に京城森安商店の特別陳列あり應接室を設へ種々の器具を備けるが場內の好位置を占めたる事とて頗る人目を惹く、其東南なる紙器の螺鈿……

▲化學製品携帶具　第二十八號化學製品は中央道路の北……製紙、及び龜甲の煙草製パイプ等注目に値す

▲釀造品と飲食品　第三十一號釀造品は中央道路の……の中には立派なること內地製を凌ぐものあり



■寫眞　本日共進會開會式場たる勤政殿

露都の街頭より

[illegible]

日報歌壇

別れの歌　未知男

カラ〳〵と竹のパイプの二つ三つ狀になりぬ別れ路の路

眞白なる君が二の腕ゆるやかに三味に觸るゝはねたましきかな

本日朝刊附錄十二頁

朝鮮銀行拾圓券及五圓券發行公告

朝鮮銀行拾圓券及五圓券ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ發行シ從來發行ノ銀行券ト併用致候其樣式概略左ノ通リ

大正四年十一月一日　朝鮮銀行

朝鮮銀行拾圓券樣式
一、本券ハ竪式寸九分五厘橫五寸ノ長方形ニシテ用紙下部ニ桐葉及朝鮮銀行ノ四文字ヲ……
一、表面中央上部ニ朝鮮銀行ノ文字ヲ橫書シ中央ニ拾圓ト書ス右方ニ壽老人像……
一、裏面文字並ニ上模樣ハ茶褐色ニシテ地模樣淡紫色トス

朝鮮銀行五圓券樣式
一、本券ハ竪式寸六分橫四寸五分五厘ノ長方形ニシテ用紙左方上部ヨリ……
一、表面中央上部ニ朝鮮銀行ノ文字ヲ橫書シ中央ニ五圓ト書ス右方ニ壽老人像……
一、裏面文字並ニ上模樣ハ橙黃色ニシテ地模樣ハ淡綠色トス

料理の友
洋食風を加味した斬新な日本料理
晩餐の獻立　副食物　安價生活
東京芝區愛宕町 大日本料理研究會　一冊廿錢

朝鮮總督府專賣課所管人蔘の精粹
高麗人三　エキス　錠劑
朝鮮總督府法定消毒劑
アイゼル　液　粉末
本舖 京城鍾路 宜壽堂 井上藥品部

實用普通學講義
會長上田大將　顧問芳賀博士
會員大募集　新學期開始　入會金全免
東京府下大久保　國民實用學會

將棋必勝法
名人小野五平師閱　天野宗步師……
京城 大阪屋號

京日案內

列強大戰

▲露國閣員 全部大本營へ

露都來電に依れば露國閣員全部は皇帝に謁見せんが爲め二十八日夜大本營を往訪すべしと(倫敦電報)

▲獨逸側公報

伯林公報に曰く獨軍はイスチニュ─の東北なる露軍の陣地を突破し露軍はドニプの北方に退却を爲せり佰國公書は佛國戰場に於て成功を主張せず(倫敦電報)

▲英獨接戰繼續

佛軍はシャンパーニュに於て依然進出を續け英露軍も又猛烈なる戰闘を續け居れるが二十八日夜敵の第三線と接戰を行ひたり(倫敦電報)

▲獨軍損失一萬

巴里來電─聯合軍側の計算に依れば最近に取れる攻勢に於て獨軍は一萬以上の兵員を失ひたり(紐育電報)

◎支那不屈 間島問題に對し

間島問題の日本の說明に對し外交部は近般反駁書を送り新條約第八條の趣旨は是を範圍外たらしめん爲めなりし旨を述ぶる筈(北京特電)

◎全部贊成 籌安會帝政投票

北京籌安會の帝政贊否投票は二十九日開票したるに全部君主立憲に贊成せり此結果は各省將軍各團體に通告せり(北京特電)

◎大隈首相參內

大隈首相は御召に依り三十日午前十時四十五分參內天皇陛下に拜謁仰せ付けられ內外樞要政務に就き伏奏且御下問に奉答し十一時過退出せり(東京特電)

◎秘密借款說

曹汝霖梁士詒兩氏は帝政運動の經費に充てん爲め亞米利加の資本家と秘密借款交涉の說あり(北京特電)

◎大演習監部 決定

來る十月下旬東北の野に擧行せらるべき陸軍特別大演習監部は左の如く決定せり(東京特電)

北軍(進入軍)司令官 陸軍大將 載仁親王
參謀長 陸軍少將 尾野實信
南軍(國防軍)司令官 軍事參議官 陸軍大將 大迫尚道
參謀長 陸軍少將 菅野尚一

◎首相と土曜會

大隈首相は三十日正午貴族院土曜會交涉委員及び幹事を官邸に招待し午餐會を催ふせり來賓側より本田、眞田、谷森男、中島、桑田の五氏主人側よりは首相以下、一木、岡、武富、加藤、高田の各大臣出席食堂に入るや首相の挨拶本田氏の謝辭あり二時宴を終り別室に於て時局問題に付き懇談を交し三時散會せり(東京特電)

◎西園寺侯入洛

伊香保より歸京したる西園寺侯は一日午前八時半東京驛發再び京都に赴き當分洛北田中村に滯在する由(東京電報)

雜報

◎農相入京

內閣を代表して始政五年記念朝鮮物產共進會開會式に參列の爲め渡鮮したる農商務大臣河野廣中氏は三十日午前十時半釜山發列車にて同日午後九時南大門驛著入京せり一行には岡本山林局長、月田技師、野守保險事務官、玉枝近藤兩屬官、早尾技手の外內務省より渡邊地方局長池田書記官佐々木屬官も一行中に在り當日鐵道局は一行の爲め貴賓車を聯結し總督府より人見農務課長不破事務官釜山まで出迎へ接伴したり南大門驛にては山縣政務總監初め各部長官朝鮮貴族其他官民有力者多數出迎へを受け貴賓室にて挨拶を交換の後一同朝鮮ホテルに入れり

◎皇太子殿下

皇太子殿下には海軍中尉の御資格にて第一艦隊艦砲射擊見學の爲め東鄕御學問所總裁以下の供奉員を隨へさせられ十月一日午前六時半東京驛御發車午後三時半熱田驛御著熱田神宮御參拜後御召艦榛名に御搭乘鳥羽沖にて第一艦隊特殊射擊御覽の上四日午後五時十五分東京驛御著還御遊ばさるゝ由右に就き殿下には三十日午後一時參內兩陛下に御對顏御暇乞言上あらせられたり(東京特電)

◎淺田大將著京

淺田陸軍大將は既記の如く三十日午後九時南大門驛著列車にて入京文武高等官其他の出迎を受け直に朝鮮ホテルに投宿せり

◎立花總長歸任

上京中なりし立花警務總長は齋藤副官を從へ三十日午後九時南大門驛著列車にて歸任せるが停車場には警務總監部員憲兵隊員其他の出迎を受け馬車にて官邸に入れり

◎駐支和蘭公使來京期

北京駐在和蘭公使夫妻及び同公使館附武官は內地觀光の途次十月一日夜南大門驛著汽車にて入京朝鮮ホテルに投宿し二日間滯在の筈なり

鐵道協會員を迎ふ 三十日夕臨時急行にて入京す

帝國鐵道協會員の一行は共進會開會式並に鮮鐵一千哩祝賀會に招待せられて三十日午前八時釜山發の臨時急行列車にて同日午後九時半南大門驛著入京した、深川驛で一行を乘せたる列車を迎へる、一二等車一輛、食堂車其他九輛を連結した此急行には有島武、馬越恭平、仙石貢、野村龍太郎、法橋善作、渡邊嘉一、中根虎四郎、村井貞之助、植村俊平、國師民嘉、本山彥一、阿部浩何んど云ふ御歷々同勢約百五十名何れも鐵道關係の顏揃ひ、中には朝鮮通の人もあるが初めて來たといふ人も多く比較的單調な京釜線の眺望も餘程目新らしく見えた樣子で車窓より首を出しては互に指さし合ひ覗き合つて打ち興じ乍ら長亭短驛悉く見落すまいとして居る、朝鮮といふ處は隨分つまらぬ所のやうに思つて居た朝鮮を良いと云ふ人は朝鮮に居る人の負け惜みだと位に思つて居たが、どうして來て見ると山は靑く野は稻の垂り穗の實り豐かに、まるで內地と異る處もないとは多くの人の一致した感想である、一等の寢室に一人で葉卷を燻らして居る仙石前鐵道院總裁を訪へば同氏は席を讓りながら『私は久しく朝鮮に來なかつた此前に來た時はまだ昔と云つて宜しくこんな鐵道などは無かつた時代で何不自由なき交通機關を利用して著しく靑味を增した山を見乍ら旅行する今の境遇は實に今昔の感が深い』と云つては窓外を眺める別室で地圖を擴げて居た野村前滿鐵總裁の前に行けば極めて慇懃な態度で『私は明治三十七年と三十九年と二度朝鮮を通つたが後の時には鐵道が新義州より釜山まで開通して居たが安奉線は未だ出來て居なかつた、今日彼の立派な釜山の大棧橋から急行で滿洲まで直通することが出來るので實に便利なものです、歐亞交通の幹線たる此の朝鮮鐵道と滿鐵との關係は若し之れを統一經營する事こもなれば好都合此上も無い事と思ふ、それは必要な事でしよう』去りて馬越恭平翁のところに行けば同氏はイヤ麥酒會社の事で皆さんに色々御厄介になつて居りますと極めて叮嚀に頭を下げ乍ら『ハイ、エー京城へは五年振りで大さう變つて居る事と存じます、なか/\賑かださうで、私は元山にも參り金剛山にも行つて見たいと思ひます』名士の話を聞いて居るうちに成歡まで來た、車內は眞夏のやうに暑く京城が追々近づいたの車中が賑かになる(三十日夕成歡にて)

◎八月遞信收入

遞信局に於ける八月中の郵便電信電話總收入は十九萬七千二百七十九圓三十一錢八厘にして之を昨年同期の十九萬一千二百六十七圓三十七錢六厘に對比すれば六千十一圓九十四錢二厘の增收にして更に之を同月迄の累計百三十九萬二千百六十八圓六十七錢九厘に昨年同期の百三十四萬六千四百九十八圓八十九錢に對比すれば之また四萬五千六百七十圓五十九錢の增收を示せり次に八月中の收入印紙收入は十三萬七百五十六圓九十三錢八厘にして前年同期に比し千三百四圓廿八錢一厘の減收なるが同月迄の累計によれば前年に比し四萬六千九百六十九圓三錢の增收なり

◎露貨下落

日滿聯絡貨物引換代金換算率中東淸鐵道線著の場合は九月二十四日以降當分の內日貨百圓に付露貨百四十八留となり一留下落せり

◎日支週遊と巡遊 十一月一日より乘車券發賣

本年四月北京に於て開催されたる第三回日支聯絡運輸會議にて議決されたる日支週遊券並に日支巡遊に就ては履報の如くなるが其後諸般の準備漸く整ひ愈十一月一日より乘車券の發賣を開始することゝなりしが今其概略を述べんに

■日支周遊 は現行日支聯絡運輸に由る鐵道と上海漢口間日淸汽船會社の航路及び上海と神戶、下關、門司又は長崎間日本郵船會社の航路を連接して以て日支支那週遊の目的を達せしめんとするものにして其の周遊券は朝鮮にては釜山、南大門、仁川、平壤、鎭南浦にて日本內地にては東京、橫濱、名古屋、京都、大阪、三の宮、神戶、下關、門司、長崎にて南滿洲にては大連、旅順、奉天、安東にて支那にては新民府、山海關、天津、北京、南口、張家口、漢口、濟南府、浦口、南京、上海にて發賣し之が經路は可成多くを設けて旅客の選擇に任せることゝあり朝鮮發に就て之を云へば各聯絡驛とも南行、北行何れを先にするも自由に自已の欲する切符を求め得べく支那內地の經路には漢口を經由するものと否らざるものとの二あり即ち北行は南滿洲、奉天を經て北京に至り京漢鐵道に依りて漢口に出で夫より日淸汽船會社の汽船にて長江を下り上海(又は南京上海間を滬寧鐵道にて)上海より日本郵船會社の汽船にて下關に出で發地に歸著するもの及北京より天津に出で津浦、滬寧兩鐵道に依り日本郵船の汽船にて下關に出で發地に歸著するものにして南行は此反對の徑路に依るものなり、賃金は一、二等普通二等三等の四種に區別し何れの徑路に依るも船車何れも普通賃金の三割引にて通用期間は發賣の日共四個月なり

■日支巡遊 は日本郵船會社の遠洋航路乘船券所持の一等船客が其乘船券面記載の橫濱上海間の該社の汽船に依らず即ち橫濱又は上海より大陸路鐵道に依りて朝鮮、滿洲支那の各地方を巡遊旅行せんとする旅客の便を圖り橫濱又は上海港に於ける日本郵船會社支店若くは船中に於て發賣するものにして鐵道院線橫濱東京間の往復旅行をも含み賃金は大人金百二十圓小兒金六十圓(普通賃金の三割引)なり而して本券は各鐵道線各種急行列車に有効にして(寢臺車に乘車するときは別に之が料金を要す)通用期間は發賣の日共四十日、日本を通過せんとする外客又は日本より歐米に向はんとする船客にして途中朝鮮支那を巡遊せんとする者の爲に尠からざる利便を提供するものなり

◎府令四件發布

十一月一日の官報を以て左の四件發布せられ何れも公布の日より施行せらる可し

朝鮮水先令施行期日
制令第六號(朝鮮登錄稅令)中改正の件施行期日
朝鮮水先令施行規則(全文七十一條)
朝鮮水先令試驗規則(全文十一條)

◎遞信局三年度決算

大正三年度に於ける遞信局總歲入出の內郵便電信電話の歲出入決算左の如し

一金三百十四萬九千五百八十八圓四十九錢四厘 歲入決算
一金二百九十三萬九千三百七十二圓三錢五厘 歲出經常部決算
一金二十七萬三千六百廿五圓六十五錢 通信事業所屬歲出臨時部決算
差引金六萬三千四百九圓四十九錢一厘 歲入不足

◎京城三田會

京城三田會にては本山每日新聞社長藤山雷太氏石田慶應義塾幹事等の來京を機とし二日午後六時半より朝鮮ホテルにて秋季懇親會を開く會費金參圓なりと

漢江遡航談 櫻井仁川稅關長

朝鮮の河と云へば平素は水が無くて一朝雨が降れば一時に氾濫する誠に厄介なものとのみ思ふのは誤りである中には立派に船の通する有用なる河が無いではない五大江の一たる漢江の如きは即ち此の後者に屬するので流域は忠北京畿江原の三道に股り下仁川より上は忠州、春川地方迄船舶の便が利く然し汽船等の航行を得るは仁川より六十餘浬の龍山迄であつて夫より上流は淺瀨があるので底の平な河舟でなければ通航は困難である九月一日漢江を遡航したのであるが之は從前漢江遡航に付いて帆や櫓の取方を誤つて淺瀨や磯に打付かつて思はぬ不覺を取つた者が多いのである斯樣な事で天然の運送通路を利用せないのは甚だ遺憾とする處である京仁間の運送の通路としては道路は未だ完成せず漢江の如き路以外には二十餘哩の鐵路を以て連絡されて居るのみで現在貨物の大部分は之を利用してるのである特に

▽巨大なる重量の 品物や急を要せない貨物の運送には此の河の便が御用に立つて居るのであるから此の河の便が隨分あるのであるから人の知る如く途中難所は隨分あるから此の河を利用するものは充分の注意を拂つて舟行して貰ひ度い此の河を利用する事の少い理由は僅かの標識があるが殆ど標識が無く放任の狀態であるから水底の形態が常に變化して淺瀨の變化が激しいから從つて舟行者が思はざる失敗を演じたり又は仁川は三十餘尺干滿の差のある處だから江華島と金浦半島の狹い水道を潮の差し込む時は大瀧の如き

▲凄じい勢で且つ 潮流の早さは恐しい[illegible]もあるに其間に龍山仁川間には淺瀨が四十個所もあつて最も淺い處は八尺から十尺位である稅關の第二宮丸は吃水五尺六七寸あるのだから水先案內も最も愼重の態度を以て航行し了つたのであるが此の河は充分なる注意を拂つて運航すれば隨分便利を與へるのである

人事消息

▲河野廣中氏(農商務大臣)三十日午後九時南大門驛著入京朝鮮ホテルに投宿
▲岡本英太郎氏(農商務省山林局長)同上
▲立石信郎氏(同參事官秘書官)同上
▲月田藤三郎氏(農商務技師)同上
▲野守廣氏(同保險事務官)同上
▲奧野英太郎氏(新任久留米步兵第四十八聯隊長)七日午後八時四十分龍山驛發汽車にて赴任の豫定
▲薮濱忠太郎氏(元山水力電氣專務)廿九日入京旭館へ
▲淺田信興氏(陸軍大將)同上
▲立花小一郎氏(警務總長)三十日午後九時歸任
▲渡邊勝三郎氏(內務省地方局長)三十日入京朝鮮ホテルへ投宿
▲廣瀨滿正氏(貴族院議員)二十九日入京南大門通安盛方へ
▲尼崎伊三郎氏(貴族院議員)三十日入京不知火旅館へ
▲伊藤平三氏(京都商業會議所副會頭)二十九日入京南大門通安盛方へ
▲白川久內氏(前代議士)三十日入京不知火旅館へ
▲村山金平氏(同上)同上
▲芋川正義氏(釜山典獄)同上
▲佐々木源之進氏(海州地方法院長)同上
▲前田信兆氏(光州地方法院長)同上

新曲『千里の風』 [illegible]

正岡子規監修
模範的の新類題句集(八版發賣)
新俳句
定價四十五錢 郵稅本社負擔

本書は、故正岡子規子が嚴正なる監督の下に成れる、明治類題句集にして、題目の豐富なる、句數の饒多なる、他に其比を見ず。編纂の方法亦一新機軸を出し、四季を十二ヶ月に別ち、更に之を天文、時令、動植物、雜事、前書讚類等の順序に分類し、卷中數十個所に、爲山十餘枚を挿みて、淸新なる句に配したるなど、講伯の奇抜なる俳畫三體裁實に整然たり。

■內藤鳴雪の題言
新俳句は新俳句にあらず、古俳句なり。否、新古を集めて大成したる俳句なり。○余が舊吟に、
二百年にして天明 百年にして明治の初日影
庶幾くは以て此集に贊するを得ん

賣捌所 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

早稻田大學
■新學年開始秋季校外生募集
政治經濟科講義
法律科講義
文學科講義
早稻田中學講義
早稻田商業講義

立身成功を欲する有爲の士は來れ! 千載一遇の入學絕好機を逸する勿れ
今回の入學者に限り 御即位大禮記念メダル 贈與等十大特典提供
本年春季を以て學期を開始せり希望者は何時にても入學せしむべし
■申込次第見本規則書つき直に送呈■
東京牛込早稻田 早稻田大學出版部 電話番町 [illegible]

第 號型磨キ篩付

米國製最新式
エンゲルバルグ摩擦精米機
本機に六型あり
今回新式中型第七號第八號型を製作輸入せり本機の精白高は大型第一號と大差なし

營業科目
エンゲルバルグ摩擦精米機各型 最新式籾磨各型 精米研磨機 粉末製造機 穀類[illegible]機 肥料[illegible]機 [illegible] 其他諸機械 附屬品各種 [illegible] 機械油各種
(說明書郵呈)

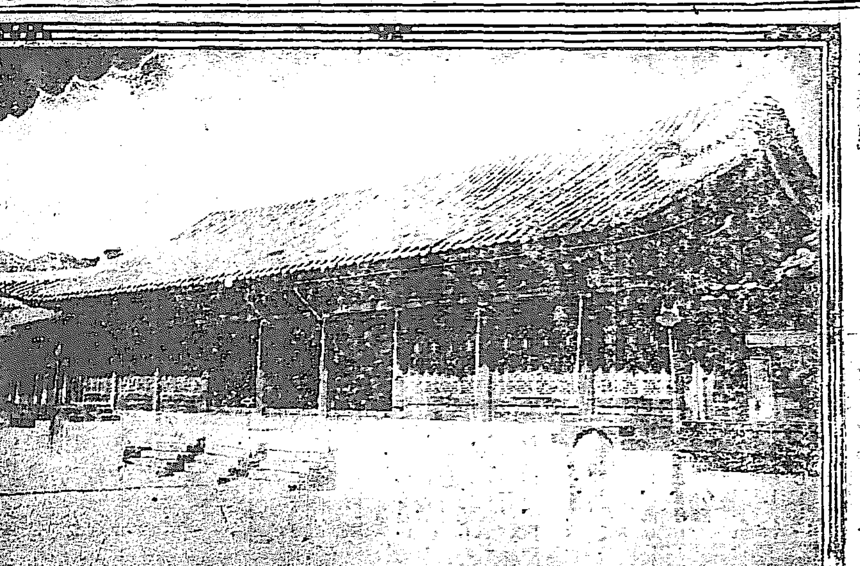
直輸入元 曾我商店出張所
京城南大門通五丁目十九番地 (電話長二一六八番)

十月三日催さる、鐵道千哩祝賀會……「千里の風」の舞踊舞臺は鴨緑江の鐵轉橋を模型としたもので、實際に回けなれば其の美觀壯觀は觀客を驚倒……百の電燈を點じ出す仕掛……今日の……も買切り來賓の觀覽に供す

……二十八日午後平壤覆審法院にて死刑……

●贓品は酒色料　住所不定無……て嚴重取調中にて被害戸數は優に數……

▲筑前琵琶大會　[illegible]



交泰殿——共進會開會式當日閑院宮殿下御休憩あらせらる

閑院宮兩殿下台臨

總督府醫院、中央試驗所の光榮

廿九日午後幽邃なる昌德宮秘苑を訪はせられたる閑院宮兩殿下は午後三時卅分光化門より御出門直ちに門の東側なる總督府醫院に成らせらる御馬車醫院表門よりポプラ並木の坂道を進ませ給へば御道の左側には白衣の看護婦を始め附屬講習所生徒、同職員、醫官の人々等威儀を正して奉迎し參らす、御馬車正門御車寄に停るや兩殿下には院長芳賀軍醫總監の御先導にて階上設けたる御休憩室に入らせ給ひ院長以下高官の者數名に謁を賜ひたる後院長御先導を仕りて階下の各診察室より東病棟第一西病室の長廊下を始めエッキス光線室、大手術室さては臨床室に於ける有馬醫官の授業を御覽の上再び表玄關より御馬車に召され病院を經路に出で午後四時三十分といふに東崇洞なる總督府中央試驗所に成らせられ正面表門前に整列せる試驗場工業傳習所職員生徒の奉迎裡に御車寄より階上御休憩室に入らせられ後豐永所長の御先導にて階上陳列館内なる各科の製作品を御巡覽遊ばされたるが陳列品の染色陶器、金工、木工、應用化學製作品等いと御興深く御覽せられたるやに拜されたり而して階下各實習場にては先づ應用化學實習場より木工科、金工科、鍛工科、染色科、陶器科實習所等を御巡覽再び休憩室に御少憩の後午後五時卅分御出門御旅館龍山總督官邸に向はせられたるが沿道には拜觀者の人垣を築きたり

◎曉雲を破て飛ばん

開會式の日龍山練兵場の壯觀

帝國飛行協會の飛行機三重號は三十日午前中を以て全部の組立を終了した、何分飛行機の技手は協會直屬の老練家揃ひとて何等の遺憾なく全部完全に三重號の裝が成つた、三十日は

▼試驗飛行がある筈と見込をつけた多數の觀覽者は格納庫を差して潮の如く押寄せた、尾崎氏は午後四時頃迄に索引力其他發動機具合などを試驗した上、一度試驗飛行を行て見る考で居つたが、折から昌德宮を御訪問ありし閑院宮殿下の龍山御旅邸へ御歸還の時に當り混雜を避くるため止なく當日の試驗飛行は中止することゝなつた最初の豫定では三十日試驗飛行を行ひ、十月一日即ち共進會開會の日を以て芽出度き長期飛行の第一日を會場訪問とする筈であつたが遂に十月一日試驗飛行を行ふことに變更した、其一日の試驗飛行は午前六時三十分京城市民の多くが曉の夢未だ醒めやらぬ頃、三重號の雄姿は龍山練兵場の空高く

▼飛翔するのである、當日は單に數十分間の試驗飛行に止まるのであるが、若し飛行機を觀ようとする者は午前五時迄に龍山練兵場の周圍に集まるがよいけれども練兵場の周圍に立入る時は危險なるを以て必ず其周圍より觀覽するがよい共進會場への第一回訪問飛行は前記の如く豫定を變更した爲め二日午前七時より八時にかけて飛行することゝなつた、訪問飛行に就て尾崎氏は曰く離陸の際は機體を練兵場東南隅に引いて行つて、あれから兵器廠を目かけて滑走し漢江の川面を瞰下しつゝ鐵橋の河原の上に至り旋廻飛行によりて五百米突位の高度迄昇騰し其より機首を轉回して

▼南山の頂を目標に飛び更に大和町附近の空を東大門に大弧線を描きながら共進會場の上に至る、會場の上では八九百米突の高度で十數分間旋回飛行をなし太平町の上を掠めて飛行場に著陸の筈である尤も未だ京城の上層氣流を實地に觀測したことがないのであるからして最初地上で想像して居た如く氣流が流れて居るか否ないかと頗る疑問であるが、併し此頃の朝の空氣は全くの飛行日和であるからして、大底地上で想像した樣な方向に飛べると思ふ、若し萬一飛行中發動機等に故障が生じても絶えず北漢山の高さと同等又は九百尺位の高度を保ちつゝ飛行して居れば故障のため運轉が休止するも空中滑走を以て安全に飛行場に著陸することが出來る

◎飛行機の觀覽

共進會訪問飛行は愈々開會式當日一日より十七日まで毎日擧行せらるゝ事となり龍山練兵場の格納庫は全部完成し三十日は澤柳少佐、飛行家尾崎行輝氏は助手を隨へ機體の檢査をなしたるが京城協贊會にては一般の便を圖り龍山練兵場に觀覽席を設け觀覽せしむることゝなし觀覽席入場料は一人五錢小兒軍人學生は三錢三十人以上團隊に對して五割引となし毎日午前九時より午後五時まで開場する由

◎祝へ此日、祝へ此夜！

晝は國旗の波、夜は彩燈の流

共進會開會式の目出度き今日の一日を祝すべく京城協贊會にては京城各町總代と協議を遂げ此日は晝夜を通じて各種の催をなすことは屢報せし通りにして三十日午後二時より慶會樓にて開會せる協贊會委員及び

▲各町代表者　等の協議會にて決定せる所に依れば晝間に擧行せらるべき旗行列、屋臺、假裝行列等は道順其他の趣向等各自思ひ思ひに擧行する事となりたれば晝の市中は此所に旗行列の萬歲聲裡に通行し行くを見れば彼所には珍奇なる趣向を凝らせる假裝行列の練り行く等ありて湧き返る賑ひを呈すべく夜ともならば裝飾光にて包まれたる京城滿都の人士は各自に今日の開會式日を祝すべく

▲紅提灯を携　へて光り輝く不夜城の町々を縫うて晝と照り輝く共進會場に練り込むものなれば此夜の壯觀こそは實に筆舌の能く及ぶ所にあらざるべし　提灯行列の集合地及び道順は多少變更したる點あれば當夜の次第を叙せんに

集合地點は京城日報社前　廣場より武橋通りに先著順に西側より二列縱隊に整列し午後六時家庭博覽會々場にて發する轟々たる爆竹の音を合圖に先頭には李王職の大音樂隊

▲瀏喨たる樂　を奏しつゝ出發而して釘本協贊會理事等の役員之れに次ぎ我社一大行列隊之れに續いて進發すれば各町各團隊の行列は到著順に出發す可く若し同時到著をなしたるものは抽籤にて前後の順次を決す可く順次は頗る嚴重に整頓する由なるも參加する行列の意匠に就ては今回は特に祝賀の意を以て猥褻に渉るものに非ざる限り大抵は大目に見る方針にて廣告燈、萬燈、屋臺等の大さも從前の如き制限を設ざる筈なりと云へば此夜の行列こそは則に之れ

▲近來の見物　なるべく各町各團體にては數日前より窃に意匠を凝らし居たる向きもあれば大行燈の種々雜多の行列珍奇なる假裝隊等通行の町々は行列を迎ふることとなるべし、行列の道順は本社より出發太平町二丁目を經て南大門に至り左折して府廳前を經て本町通りより京城電氣會社横手より總督邸門前に至りて萬歲を三唱し歸途壽町より永樂町三丁目を過ぎて黄金町を上つて南大門通りに出で鍾路を經て光化門通りより夜の會場に練り込みこゝにて萬歲を三唱して隨意解散の筈なれば午後八時過ぎより九時前後の夜の會場は人を以て埋る盛況を呈することゝなるべし

◎大提灯行列團と本社

京城協贊會にては共進會開會式を祝し今一日の夜大提灯行列を催すことは別項記載の如くなるが我社にては此行列に興を添ふべく家庭博覽會[illegible]向を凝らしつゝあり[illegible]逵に立つべき本社行列隊の先に大きな一間に餘る大行燈家庭博覽會、京城日報、毎日申報と大きく染め出せしもの二個の外數旒の社旗は數張の高張を押立て多數の社員は提灯を携へて[illegible]居り又我社[illegible]せずして此夜の集合地[illegible]りたれば先づ西門前には炎々たる一個の大篝火をなしつゝあら、階上の自動音樂器は集合前絶えず奏樂し行列の行進に調を合せ出發の際とならば家庭博覽會頭にしつらひたる大竹が爆々たる大音響を發するや階上階下を觀覽する觀覽者は社員と共に萬歲を三唱して此大提灯行列の出發に聲援することゝなれば[illegible]發前の家庭博覽會場の内外に盛觀の賑ひを呈せん

◎百發の煙花

開會式當日京城協贊會にては夜に入り百發の花火を揚ぐるよし

家庭博覽會

寄たりな千餘の聽衆

家庭博後庭の飛行講演會

家庭博覽會の提供せる一大壯擧として讀者諸君より大なる期待を以て迎へられたる帝國飛行協會主事澤柳海軍少佐の飛行機に關する講演會は三十日午後九時より家庭博後庭に於いて開催せられたり開會劈頭川島司會者は一場の挨拶に次いで澤柳少佐を紹介す、千餘の聽衆の破るゝが如き拍手喝采に迎へられて登壇せる柳澤氏は飛行機の過去及び現在より將來に分ち明細なる統計圖表を掲げて一時間に亙り滔々詳述し終りに飛行機の構造組織等に關し説述するところあり、その旨を明晰なる快辯は聽者をして深く感動せしめたる如く再び拍手喝采の下に降壇閉會したるは十時過ぎにて當夜聽衆を通じて智識階級の士多數を占めゐたるは講演者並に本社の最も多とするところなり

鐵道大競走終る

南行選手亦歸京す

朝鮮滿洲臺灣の鐵道大競走、全線一萬哩を乘り通したわが別府南行選手は二十九日午後七時三十分一路平安南大門驛に歸著した、驛頭波濤の如き人波に護衛されて其のカアキ色の制服を現はした時選手は夥多の出迎者に圍繞されて社員始め知己友人から固い握手で迎へられた、續いて瀏喨たる奏樂の聲が起ると共に音樂隊、大旗、大提灯を先頭に南大門通りから太平町通りを意氣軒昂として還つて來たが沿道至るところ人山を築き實に時ならぬ壯觀であつた、行列は本社正門前イルミネーションの光輝華の如き下にて我が南行選手の萬歲を三唱し其の長途の勞を犒つたが選手は平常の通り大元氣で毫も疲勞の色が見えなかつた、北滿洲の長春から南臺灣の打狗までを十九日間に一氣に乘り通した健氣の選手は僅かに門司に於ける船繰一日の差の爲めに北行選手に一籌を輸し遂に一歩後の敗をとつたがこれは天運であつたから致方も無い、兎に角前後二旬の間讀者諸君の喝采を博した鮮滿臺鐵道大旅行は茲に芽出度く大團圓を告げた。

祝始政記念日　家庭博覽會

明治天皇御眞影（無料頒布）

本日の佳辰に當り謹んで祝意を表し明治天皇御眞影を無料にて家庭博覽會入場者に頒つ

右御眞影は朝鮮併合の大業を成就し給ひたる明治天皇を御景欽慕し奉る爲め本社に於て謹製したる最近の御寫眞にしてカビネ大の御肖像金線最上の臺紙、二重紙の包裝、實に始政記念日の祝意を表する此の上に出づるものあらず　本日の家庭博入場者は永く家寶として奉藏せらるべし

本日は特に軍人學生にも頒つ、團隊入場者には引率者數名に頒つ、家庭博入場者以外の希望者には實費五十錢にて需に應ず

◎乃木家の家寶新伯爵家に引き渡さる

乃木將軍家の家寶其他を新乃木家に引渡すべきや否やに就き故將軍家の親族は二十八、九兩日會議を開き慎重に協議を遂げたる結果舊乃木家の一切の系圖祭祀料神饌墓地等を新乃木家に引渡すこと、決し舊乃木家の親族一同は新乃木家と親族交際をなすことに決せり（東京特電）

一世一代　御名殘り興行

浪界の泰斗來る　吉田奈良丸

初日の讀物　▲天野屋利兵衛　▲神崎の東下り

十月一日午後五時より開演

本町　有樂館

□今日の演藝館

△壽之部

[illegible]生和合なり

▲御代の榮（踊）　花龜、玉龍、高子、政子、清[illegible]菊丸、久子、小染、袖榮、[illegible]子、小ぽんた、千成、時奴、彩代次、政千代

▲つひのよるべ（踊）　三郎、小ぽんた、若菊、政勇

▲地方　香代、その、若一、蝶々、光奴、丸八、ぽたん、小高、せきや、金玉、次郎、きみ太郎

三越呉服店　賣出し

地方ヨリ御注文ハ直ニ御送リ申上候

十月一日ヨリ五日マデ

ツリキレ　見切反物　澤山

京城本町　三中井呉服店　電話三七

月刊雜誌　世の中

第一號出づ　定價十八錢　送料二錢

掲載記事五十　口繪寫眞十頗る奇拔

▲世の中は海にして人は舟也……鎌田榮吉

▲世の中雜感錄……幸田博士

▲大婦（傑作長篇小説）……田村俊子

▲第一世日自御殿の主人公の生活

世の中を達觀せる三宅、幸田兩博士執筆

▲福澤先生の見た世の中……町田秀一

▲三宅雪嶺博士の世の中より諸君へ

▲ブレーク探偵譚

▲巡査が泥棒した話（世の中の一大事）

新に生れたる萬人向きの雜誌

發行所東京日比谷實業之世界社（振替口座三四三三）

H.H.

此商標を附しあるストーブは責任ある證なり

大阪　ヒシヒラ商會

各地金物店に販賣せり

瓢の旗風 (568)

番衆浪人

賤が嶽前記 (十)

行市山の佐久間の陣では、玄蕃が限りもない喜び。頻りに、將監に盃を差しつゝ、敵陣の模樣を聞て居る。もとより將監は秀吉方の要點、殘る隈なく知つて居るのである。

『殿、何と申いても堅固、が、唯一ケ所、大岩山の中川の砦、之れならば、疾うすれば、手の中、未だ塀の土も湿いて居らず、普請も匆々御坐りまするよつて、即時に、將監先陣しませうヮ』と將監は、秀吉方の、最も手薄なる處を、玄蕃に勸めた。

『危ふい軍、好ましくないツ、玄蕃血氣の勇あらうぞ』と勝家は、餘り進まぬ姿であつた。

『何と叔父御、此の機はづいて、猿奴が、引つ返したら何とする、玄蕃必ず瀬兵衛の首見いでは……』玄蕃は、膝進めて、勝家の前に詰め寄せて

『此の戰、天下の分目、時は得難く失ひ易し、思慮も分別も、今時分には、玄蕃、必勝と存じての策略、叔父御、まだ、おきゝやらぬかよ』

玄蕃は、血相變つた。

一騎當千、北陸國一の、荒武者として、天下に隠れもない盛政が、之れ程の主張、今は勝家も、拒絶は出來ぬ、若し頭を横に振らば、何を仕出かすかも、知れぬ玄蕃。まつた、此の計事、あながち、惡いと云ふでもない。

『其れ結構、一應叔父御にも、將監參れ……』玄蕃は、將監を伴うて、勝家の陣に行つた。

『扨て叔父御、委細は將監から、兎に角斯く永々との對陣、其の内猿奴引つ返して御坐らう、後悔もせんない事、其處で、賤ケ嶽の敵には、三左衛門を押へさせ、淺見但馬には小川土佐を、五左衛門、七衛門、權兵衛と玄蕃が、瀬兵衛の大岩山へ、高山右近の陣へは、五兵衛、彦次郎、彦三の差し向け、一同に攻めかゝれは、猿が手下、持場々々を氣づかふて他を救ふ隙もないヮ、此の儀是非に……』玄蕃は面に殺氣を帶びて居る。

『左程まで、許す、出陣のせい、而し玄蕃、一旦瀬兵衛が陣、攻め落した時は、必ず共に、直に歸陣のせいか、其れ承知なら下知出さうヮ』

『旨、承知、必ず反かぬ、歸陣のすろ、中川の砦、明日火の上らば、玄蕃、入城とお察し……』

『可いヮ、行けツ……』勝家も、勵まして歸した。玄蕃は、行市山の陣地に歸ると早速取出々々に回文を出して猶豫もなく、其の夜中に出陣した。

斯くとは知らぬ、中川瀬兵衛清秀、夜も引き明けし時、城外の何とのふ騒がしきに、不審の眉根よする折、敵襲との注進が來た。さてはと、手早に物の具して、櫓に驅け上つて見ると、朝霧の中から、最ふ山々谷々に、佐久間の旗差し物が滿ちて居る。スワと、防戰の準備にかゝつた。

瀬兵衛自ら、三千餘人を指揮して持場々々を嚴重な固め、先づ鐵砲で寄せ手を打ち驚した。が、敵は大軍、砦は少さし、見る〳〵内に、佐久間の手兵は、蟻の如に、外塀を搔き上つて來る。寄せ手の先陣、拜郷五左衛門久盈は、まつ先に馬を進めて、必死に下知して居る。

斯くと見た清秀、遂に木戸を開いて雲霞の如な大軍の、眞唯中に、阿修羅と荒れ狂ふ。遥かに見た久盈、馬の頭を向けて、清秀に渡り合つた。双方とも、名高い勇士、五六合もせたが、久盈は急に馬を返した。清秀は、部下を勵まして此の一角を突破せんと猛襲を企てた、大事ッ、此處が破れては、味方の敗北と、大將佐久間玄蕃盛政、軍中より躍り出て、者共返せと、中川勢を縱横に薙ぎ立てる。双方暫時は互角の勢であつた、されど無援孤立の中川勢、名たゝる者も最早大半討死した、清秀は一族と共に、決死の覺悟で、獅子奮進、見る〳〵佐久間の軍も、危ふくなつて來た、折柄城後の間道から忍びよつた、神戸兵左衛門、佐久間久右衛門、同苗源六の三人は早や城に火をかける。哀れ、中川勢も、前後に敵を受けて、絶對絶命となつた此の時に乘じて玄蕃は、清秀と單身雌雄を決せんと、馬を進めて、槍を合せた。北國一の荒武者と、畿内隨一の老武者とが、虚々實々、火花を散らす決戰。此の勝負、何時果つべくとも見えぬ。何うした拍子か、玄蕃が、一聲打ち下す金さい棒、瀬兵衛が左りにかはして、ヒラリと馬から飛び下りた時。

『玄蕃尉殿御内、近藤無一』と名乘る者がある、瀬兵衛が、ツト振り向く所を、すかさず組み付いて、右の腋下に二た刀、鎧のすきまから刺た。清秀は此の咄嗟の出來事と、急所の傷手に、其儘斃れた。玄蕃は、馬上で、躍り上つて喜んだ、大將を失つた中川勢は、最う散り〳〵ばら〳〵となつて、玄蕃は、目的通り大岩山の砦を占領して、三度勝鬨を揚げた。

而し、此の勝戰が、却て北國勢の大敗北となる原因となつた。之れから、愈々賤が嶽の、大會戰となる。

新機 上等 高貴織 一反僅か貳圓五十錢
上等 萬歲旛金指輪進呈

東京神田表神保町玉川呉服店は今回手形其他の金融の關係上思ひ切つて投げ出したる數十反の大正四年式最新機高貴織は一見拾圓の品と異ならぬ程の上等品なるも一反僅か武圓五拾錢と云ふ天下絶無の破天荒なる驚く値段で捨賣し其上今回は御大典奉祝用萬歲旛及十四金純金色自在の不思議金指輪の二種を一反毎に添附進呈する由なればセル地は殆んど只同様の買物となる事とて日々大山を成す様な大盛況を極めつゝあり因に希望の向は同店宛ハガキにて男女年齢記載注文せば色柄見本代金引替送料實費に急送せらるべき由なり

●改正 淘宮、書目進呈 九星、易學 家相、人相、姓名
學等の書籍專門にて十數年來發行し來り候處改正目錄出來候に付無料進呈仕候間御申込被下度候
東京神田區錦町二の三 永樂堂書店

オイソ 特效藥
七歳より下の コドモかぜ＝ねつ
主效 かぜ、ねつ 痲疹、肺炎 流行性感冒 マラリヤ 百日咳、熱 其他熱一切
山稲内 醫學士 口垣田 醫學士 藥學士 方士證監 劑明修
本舗 大阪東京 丹平商會
價十錢、二十錢、三十錢 各藥店にあり

流經新藥 レスノリン 月やく
とまり四五ケ月以内に効果てきめんに現はれ其流經作用の確實なる事他藥に優越す●藥價一瓶壹圓送料三十錢切手一割増 說明書三錢切手封入申越進呈
大阪市北區曾根崎上一丁目三六 發行所 常盤藥院 振替大阪二八三七〇番

子宮サック 甲一圓 乙七十錢 密送料八錢
ゴム製にして婦人衛生欠くべからざる品にして月經時には經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむ▲郵券一割増

ルーデサック 純良ゴム 特製品 一打五十錢 二打九十錢 送料八錢代金引替廿五錢
大阪市九條二番道路西 杉本商店 振替大阪一七〇二三番

●秋の今 貴下の座右に呈す
此法よく 記憶力を增し頭腦を明晰にすべし 腦病神經衰弱(ヒステリー)を治すべし

第一に心懸くべき事

秋は快よく天下を訪れて萬物は新生の呼吸をする「此秋こそは大活動しよう」「此秋こそは一仕事しよう」とは何人の口にも吐かるゝ覺悟であるが實にも三伏の夏にボヤけた腦やダレた身體を持餘した人々にとつて秋風は天來の福音である。秋になつて腦が明晰になつたら身體が健かになつたらと云つて待つてゐた秋なので緊急一番大いに成す處あるべき筈ではないか。處が此清冷の秋となつても何夏同様に引續いて腦の活力が回復しない人即ち腦のぼやけてゐるに困じてゐる人が大分あるが、之れ以前より腦の惡い人か亦は夏季に於て腦の健康を害した人かであつて此事たるや生涯不幸の原因となるのであるから決して輕々に思ひなしてはいけない速かに治療すべく心懸けるの必要がある其爲には既に醫學士常持治氏の一般無料進呈しつゝある治療書もあり亦同氏の發明になる有名な健腦劑レーベンもある事であるからあれこれと迷はず早く服用して治療するがよい

第二に知るべき事

腦が惡い―つまり腦病神經衰弱症から來るので女では俗にヒステリーと云ふ其最も多い症狀は矢張頭痛である頭内朦朧として、頭が重かつたり後頭部がチク〳〵痛んだり腦の片側のみ痛むとか或は天氣具合で鈍く頭痛がするとか實に不快なものである之等の苦痛を除去するには常持學士の健腦劑レーベンが最も偉大なる効力を有してゐるのであつて如何に記憶力を增し頭腦を明晰にするかは其成分に非常に多量の『リンサン』(腦の根本の營養要素)を含有してゐる一事で既に知る事が出來る勿論此偉大なる効力は其他の一般腦病神經衰弱の症狀にも及ぶのであつて以下詳しく本病の症狀を說くとしよう。上述頭痛に次いで多くは不眠症である夜就床しても中々眠れないのは即ちそれである妄想や取越苦勞あらぬ心配に追はれ〳〵て甚だしいのになると曉迄眠れぬ事さへある、よく夢を見る、寢汗をかく。斯くて朝の不快は云ふ迄もあるまい實に不快である。

第三に覺るべき事

であるから此神經衰弱氣味の人は一體に血色が惡い、それで何となく身體が倦怠くて仕事に氣がのらない事に飽き易い氣が變り易い俗に謂ふいら氣である、それに極端に潔癖やむら氣や好きになつたり疑ひ深く嫉妬深くなつたりする、耳鳴は亦は些こしたはずみに眩暈を感ずるなどもさうである尚執務中眠氣に襲はれたり欠伸を連發したりするのも其一症である、又氣が散つて讀書の出來ぬのや計算事を面倒に感じたり思考力の鈍つたのや判斷力が不思議な位ぐらいやうなのは病勢が餘程進んでゐるのであるから、治療を急ぐべきであるが、其初期に於て何を喰べても不味で食慾不進消化不良だつたり便通不整だつたり視力が衰弱れたりする事があるが其時は胃病なぞと誤つてはならぬ此病氣は十中九迄自分でそれと自覺せぬものであるから上述症狀をよへ參考して其の症狀でも覺えあつたら速時レーベンを服用すべきである學生事務家投機家教育家は勿論生活上常に精神を烈しく使ふ人には必ず此病が有から注意するがよい

第四に成すべき事

生存競爭が劇しくなればなる程すのが此病氣であつて俗に文明病とも云ふ位、症狀愈々進んで奮鬪力が消滅して根もない悲觀厭世の情に囚はれ其人は極めて亡國的な人になつて了ふ即ち現下識者の大問題となつてゐる所以である、常持醫學士のレーベンも其點からして世に重用されるのであつて岡田博士を始め森醫學士其他陸海軍醫諸家の推奬や卓効證明を有するは如何に其優秀なる健腦劑たるやを知るに足らう今の世は實に『頭の良い人』と『頭の惡い人』の爭鬪である而して頭の良い者が勝者たり頭の惡い者が失敗者たるは云ふ迄もあるまい腦病良藥レーベンによるなり又は常持氏の治療書によるなり兎に角本病を速かに治療せられよ『腦神經衰弱療法』『精神療法』の二書は東京京橋區弓町二十二、弘濟院中南定太郎宛只にハガキにて申込まれば何人にも速時無代進呈さるゝので遠慮なく直ちに申込まれよ。

播州別府港 多木製肥所
多木肥料
販賣希望の御方は御申込み願上候

外科 梅毒、淋疾 皮膚病
內科 痔、肛門病
小兒病 耳鼻咽喉科 (入院隨意)
島崎病院 京城黄金町(電話二七六番) 院長 島崎龍一

新刊書御案內

書名	著者	定價
○井上英和大辭典	井上 十吉	二、二〇
○新說無機化學	石田 湯川	三、五〇
○教育法眞髓	河野 清丸	二、四〇
○算術教授の新研究	足立	一、五〇
○幕府瓦解史	熊田 羽城	二、五〇
○金色夜叉(縮刷)	紅葉 山人	一、二〇
○刀劍鑑定備考	羽皇 國史	一、八五
○藝術と哲學との間	石坂 養平	一、〇〇
○小說「鴨」	佐藤 紅綠	一、六五
○男女對等論	廉生 澤	一、二〇
○色鳥	夏目 漱石	一、二〇
○花袋全集	田山 花袋	一、八〇
○暄無情	黒岩 淚香	一、二〇
○和漢名詩選	松浦 政泰	一、四〇
○修養小品	加藤 咄堂	一、二〇
○正しき用字法	大町 桂月	一、八〇
○批評の要訣	上田 小山	一、七〇
○兩京去留誌	鶴富猪一郎	一、五〇
○農家經濟の話	山崎 延吉	一、四五
○マッチの棒	岡本 一平	一、六五
○頭を抱へて	鵜崎 鷺城	一、九五
○新式日英手紙の書方	前川 貫之助	一、四五

京城本町電話二〇八六番振替京城二一五七三 大阪屋號書店

日本郵船仁川出帆
○大連太沽牛莊行 高砂丸 十月廿一日 正午出帆 / 三河丸 十月 八日 正午出帆 / 相模丸 九月 九日 正午出帆
○青島直行(大連芝罘行) 江原丸 九月 日 出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番 堀回漕部

朝鮮郵船
本社 電話長一九五二番 鐵道及内外船と荷客連帶聯送の便あり、詳細は支店、出張所、代理店、荷客取扱店に御照會願候
京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店(電話長二一七)
全羅丸 △十月十五日 / 京畿丸 △十月 五日 / 黄海丸 十月 九日 / 咸鏡丸 十月十九日 釜山發 (門司より釜山各港寄港雄基間、但△印は元山釜山間直航する)
昌平丸 九月 日 / 鏡城丸 十月 六日 元山發 (元山より各港經由雄基行)
竹丸 十月 七日 / 忠清丸 十月十四日 元山發 (城津、清津、浦鹽行復航釜山經由門司)
永興丸 毎月廿八回 元山發 (北久妹、九里浦行 又は長崎延長)
嘉島丸 十月一二日 釜山發 (甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行)
江陵丸 / 義陽丸 毎 月 (釜山 浦項)發 (長生浦、方魚津寄港)
三浦丸 十月一日 釜山發 (長承浦、麗水、巨文島、濟州島各港)
海州丸 巨濟丸 / 統營丸 慶寶丸 毎日 釜山發 (各港經由麗水行(三日目一回木浦行))
順天丸 三日目毎 木浦發 (各港經由順水行麗水より釜山行に接續)
慶興丸 十月 一日 木浦發 (各港經由濟州島行(月八回))
公州丸 十月 三日 木浦發 (南多島海列島行(月三回))
永信丸 十月 六日 仁川發 (海州他各港經由、鎭南浦行)
江原丸 十月 六日 仁川發 (寄島直行、大連、芝罘行)
鹿水丸 十月 九日 / 昔州丸 十月 四日 仁川發 (各港經由木浦行)
全州丸 / 南陽丸 毎日午前 仁川發 (江華島、喬桐島、海州行)
平安丸 十月十六日 / 十月十三日 群山發 若松發

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 小倉丸 十月 五日後五時出帆
○元山城津浦鹽行 小倉丸 十月十四日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 立神丸 九月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸 十月 七日後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 十月 七日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 十月十三日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大眞丸 毎月二日九日十六日廿一日廿六日 午後十時出帆
釜山港埋立新町 木船取扱店 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行 秀吉丸 十月 七日後五時出帆 / 君が代丸 九月 三日後四時出帆 / 神代丸 十月 三日後四時出帆 / 大有丸 十月 五日後五時出帆 / 第二太湖丸 九月 日後五時出帆
○群山、大阪行 土海丸
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
芝罘、大連行 共同丸 九月 日後七時入港 十月 一日前九時出港
西湖津沿岸各港を經て雄基行 第一阪鶴丸(元山出帆) 九月 日後九時 九月 日出港
第三共同丸 九月 日前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目(電話一〇八番) 山下回漕部 / 仁川代理店 田口回漕部 / 元山代理店 / 京城取次店 南大門通 河村運送店

大阪商船仁川出帆
○中國四國沿岸各港行一割引を以て連絡切符發賣仕候
○外航所屬船(滿洲航路を除く)陶器積の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候
×○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行 漢城丸 十月 七日 / 蘇州丸 十月十一日 / 須磨丸 十月 四日 午後五時出帆
××○木浦、釜山、長崎行 安東丸 十月 九日 / 天智丸 十月 三日 午後二時出帆
××○鎭南浦、大連行 安東丸 十月十三日 / 天智丸 十月 五日 午後二時出帆
○○鎭南浦、關門、神戸、大阪行 漳州丸 月 日 正午五時出帆
△△○群山、釜山、橫濱行 千珠丸 十月 九日 / チヨイサン丸 十月廿一日 午後四時出帆
○大連直行 千珠丸 十月 四日 / チヨイサン丸 十月十五日 正午出帆
○元山、清津、浦潮行(釜山出帆) ▲は城津西湖津に寄港浦汐不寄港 ▲城津丸 十月 七日 / 地久丸 十月十七日 / 地宮丸 十月十二日 午後九時出帆
○上海、基隆、打狗行(大連出帆) 安平丸 十月 一日 / 新高丸 十月十一日 午前四時出帆
御注意 ○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候 ○特別乘船客は本船出帆約一時間前迄に御乘船相成度候 ○×印は一等客御斷り◆印は船客御斷り
仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二二番二二〇番五五〇番
京城切符發賣所 內國通運會社支店 電話七八〇番

●軍艦觀覽者數 十九日より仁川港碇泊軍艦觀覽者數累計一萬二[illegible]千四百[illegible]人にて十九日より二十五日四百十八人二十六日一千五十六人二十七日六百八十四人にて累計一萬二千四百八十七人の觀覽者ありたるものなり二十五日以來は風浪三盛[illegible]

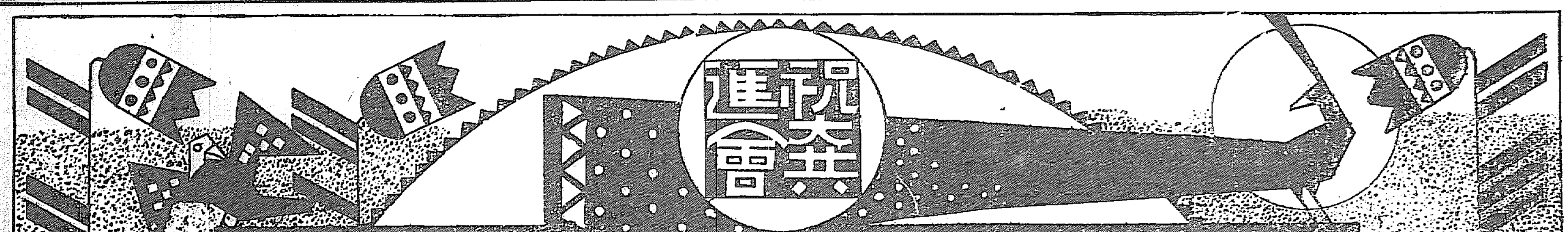
●徽章佩著者無料入場 共進會開會式に招待せられたる者にして[illegible]

●鐵道院[illegible]電報正誤 九月[illegible]店」は「本[illegible]賈店」「[illegible]主要市街二十三」とあるは「主要市街二三」の誤りに付正誤す

[illegible]業に寄附すべきに付其配付方を本社に任せられたるを以て京城濟生院養[illegible]部に七[illegible]城救護院に七圓を寄附[illegible]

[illegible]には蘇東坡、趙孟頫、鄭板橋(以上支那)鄭謙齋、金阮堂、李[illegible](以上朝鮮)諸氏の眞蹟あり文房具には[illegible]

●矢尾大華畫伯入京 同畫伯は初め美術學校に學び後渡邊華山[illegible]京畿分明治町春秋庵に滯在し柏垣道長官、國分長官、森[illegible]博士、工藤[illegible]平民其他官民知名の人々の肱幭を得[illegible]

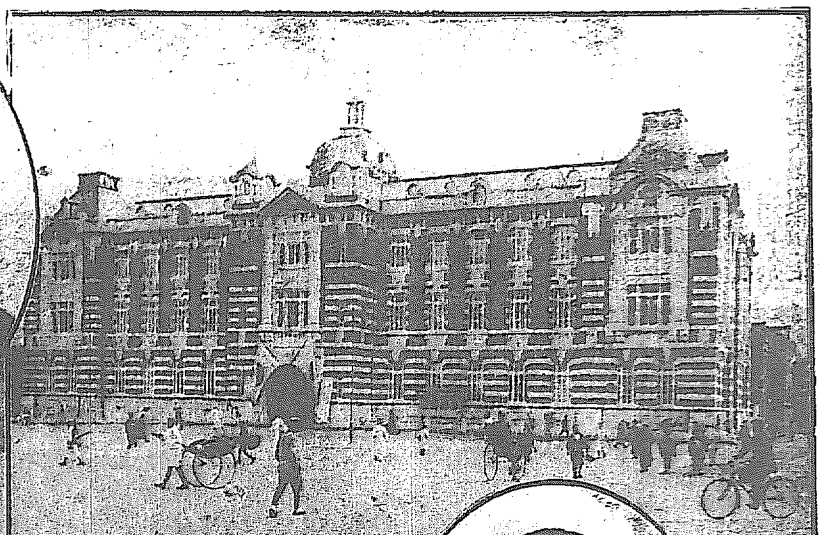


●東洋第一の郵便局

朝鮮の誇り＝三十萬圓の大建築＝十月一日より一週間公開

＝郵便電信電話事務の概要＝

今回新築落成して南大門通に一美觀を添へたる京城郵便局は十月一日より七日迄約三千人の人々に招待狀を發して縱覽せしむる筈なり同局の工事は大正二年十月二十三日を以て工を起し本年九月十五日竣工したるものにして英國ルネッサン式間口三十五間奥行本町通十五間支那領事館通十一間三尺の大建築物なり、工費二十四萬四千三百二十八圓外に土地買入其他に五萬五千六百七十一圓を費したり、建坪は本館煉瓦石造三階建三百五坪五合、郵便現業室煉瓦石造百八十七坪總延坪一千二百四十二坪二合五勺と註せらる、之れを內譯すれば地下室百五坪二合五勺、一階四百九十二坪五合、二階三百三十九坪、三階三百五坪五合となり居れり、軒の高は本館の地盤よりパラペット上端迄五十九尺四寸、中央高塔避雷針尖端迄百一尺四寸、郵便現業室地盤より軒樋上端迄三十六尺ありと云ふ



新築の京城郵便局と遞信局長官池田十三郎氏

京城郵便局長服部正一郎氏

▲室內の各設備 室內には各室共『シャンデリヤ』及び『ブラケット』等を設備し冬期の設備としては重力式蒸氣暖房を用ひ汽罐には米國式『アイデル』『セクショナル』エス型三十六吋九個連結二臺を備へ配管は一管式二管式の共用にして其延長九町に及ぶ程の最長尺なり、萬一の用に供せんため各階段に六個所の消火栓を設備し本館屋上には五個所に避雷針を設くる等現在の郵便局としては東洋第一と稱す可き周到なる用意を施したり

▲郵便取扱順序 以上は今回落成したる新廳舍の大要なり更に之れより順を追て其事務取扱の內容を紹介すれば郵便係に於ては通常郵便小包郵便受付、集配、發著、爲替貯金の受拂事務の外尙ほ京城新義州間京城元山間の鐵道郵便事務及び春川方面行郵便遞送事務を取扱ふ而して吏員の總數は八十七名にして集配人遞送人及び郵便夫等雇人は合計百五名なり即ち同局郵便關係事務は百九十四名により運轉し居れるものなり其郵便物の取集度數は一日八回にして配達度數六回なり而して引受郵便物數は一日二萬五六千、配達物數は二萬なりとす又郵便物差立度數は一日三十八回發著度數三十六回なり其差立到著行嚢數は合計三百二十五個なりとす爲替貯金及び現金の一日平均取扱金額は十二萬四百六十六圓餘なり

▲郵便取扱の大要 市內の郵便柱函及び窓口郵便函に投入せられたる郵便物は之を取集め一應檢査の上に置き相當檢査をなし押印臺の上に移し切手を消印す右の取扱を終りたる郵便物は方面別に區分棚內に大區分し然る後小區分棚に細別區分をなす小區分を了したるものは局宛の紙を付し把束を爲し行嚢に納め發送するものとす發著郵便物は之を配達に付するもの市內局宛のもの遞送の誤送を受けたるもの等に區分し配達に係るものは配達係に於て配達區分棚に區分す此區分棚に區分せられたるものは集配人に於て之を組立區分臺上に移し配達順を組立て懷に入れ配達するの順序なり尙詳細は階下各係に於て說明す同局に於て郵便事務の繁忙なる時刻は汽車の發著關係上午前中と午後六時より夜半迄なりとす從て吏員は午前中と夜間とに多數勤務せしむ而して夜半後は常に係に於て四名(內一名は監督者)徹夜し郵便物の取扱及び監視に任ず宿直吏員は午前九時より翌日の午前十時迄即ち二十五時間連續勤務す其の間睡眠時間は三時乃至四時間に過ぎず又集配人は午前六時半より午後十一時半迄勤務す其の翌日と雖も全然休暇を與ふるを得ず午前中と夜間に內地より到著せし郵便物の配達に從事せしむ而して全く一日の休暇を得るは月に二回にして缺勤者ある場合には一箇月間休暇を與ふるを得ざることあり

▲窓口事務 郵便私書函を使用するときは一定の配達時刻より早く郵便物を受取ることを得るの便あり又多數の使用人を有する商店等に於ては配達郵便物受取上の取締をも利便とするところあり詳言すれば區內在住者は一日六回の配達便による外郵便物を受取ることを得ざるも私書函使用者は通常の配達時刻を待たず郵便物到著都度私書函より之を受取ることを得べし又多數の使用人を有するものは集配人の配達する郵便物を其度毎に一定のものにして受取らしむる樣取締ることは困難なるも、書函を使用すれば其鍵の受授を嚴重にし之を取締ることを得るの利便あり又私書函使用者は豫め請求し置けば普通通常郵便の外書留又は小包等も共に受取ることを得而して之が使用料は一箇月五十錢の割にて三箇月前納することを要す(以下二面につゞく)

祝共進會開催
京城日丸水產株式會社
電話一〇八番
電畧ケロ

祝 共 進 會
正札附陳列
縱覽無料
共進會紀念即賣會
書畫骨董
ヒスイ 高麗燒
貴顯紳士諸彥の御土產に適當品澤山
本町二裏通(電話七八四番)
京城競賣株式會社
自午前八時至午後六時

京城協贊會發行
始政五年朝鮮物產共進會記念繪葉書
三枚一組 定價金十二錢
朝鮮本部發行
日本赤十字社愛國婦人會 記念繪葉書
三枚一組 定價金十錢
共進會會場內 光景繪葉書
甲 八枚組 十二錢
乙 八枚組 十二錢
送料は二組毎に金二錢
御註文の節は弊店振替口座へ御入金被下度候代金引替にては發送不仕候
朝鮮名所風俗繪葉書發行元
京城本町二丁目
日之出商行
振替口座京城四〇二番

祝共進會開催
唯一の實用的京城みやげ
朝鮮名產
栗羊羹
□發賣元 京城本町二丁目 電話二十七番 電話四七五番 龜屋商店
祝家庭博開催

祝共進會開催
乾物食料品卸商
京城南米倉町
辻本商店
電話六七四一五番

京城郵便局事務概要

●窓口事務(一面のつゞき)

▲小包郵便 小包郵便物は市内の各郵便所に於ても之を取扱ふにより同局窓口に於て引受るものは局附近居住者の差出すものにして一箇月八千餘個なりとす窓口に於て引受けたる小包は引受帳に一々差立係員の受領印を受け同係員に交付す又當窓口に於て交付する小包は主に代金引換小包なりとす代金引換小包は總て名宛人に配達せず局に留置代金と引換に受取人に交付す此の代金引換小包も名宛人受取上の便宜を計り其の住所に近き郵便所に送付するを以て同局留置のものは少數なり小包郵便物差出上に就きて注意を要するは同郵便物に手紙を包裝せざること小包の包裝は其の品質形狀に從ひ在裡品を保護するに足る堅固に包裝せられたきことゝなり從來の實況に鑑るに鉱力罐、蜜柑箱、洋紙(惡質のもの)等を用ひたるものは極めて破損し易く内容品毀損、脱出、宿所汚損等は總て之が原因となり居れば特に注意されたしと

▲特殊取扱郵便 窓口に於て取扱ふ郵便物は書留郵便其の大部分を占む特別取扱の郵便物も市内各郵便所に於て取扱ふにより同局引受のものは一箇月七千五百餘通なり書留郵便物の外窓口に於て價格表記、別配達、配達證明、留置、集金郵便代金引換、内容證明引受時刻證明、其の他市内特別取扱及び速達郵便の引受を取扱ふ

▲應接係員 窓口に於ける公衆に應對する爲め應接係員を設き事業に關する公衆よりの問合に對し懇切説明の任に當らしむると共に郵便掛長所を窓口に接近したる所に設き公衆の申告問合を聞くに便ならしむると同時に窓口官吏の行動を監視す又一面公衆の言は局長初め掛長に於て進で之を聞き一つに公衆の機關利用上不便なからんことに意を用ふるにより不便不都合と認められたること口頭電話又は文書にて局長又は掛長に通報されたしと

●爲替貯金

爲替貯金部は爲替貯金振替貯金其の他現金一切の收支事務を取扱ふものにして昨年度一箇年間に於ける受拂は受入に於て口數九萬六千三百三十五口其の金額千九百六萬六百四十七圓拂出に於て口數十二萬二千十九口其の金額千九百六萬千五十四圓を算し最近五箇月の一箇月平均は受入に於て口數七千八百四十口其金額八十萬九千十五圓拂出に於て口數一萬九百四口其金額百八十萬四千九百八十四圓の割合なり

▲郵便爲替の振出及び拂渡 振出に於ては差出人の請求に依り振出す(一)通常爲替(二)小爲替(三)電信爲替は一箇月平均口數二千七百三十四口金額十一萬三千二十八圓にして受取人の請求に依り拂渡すもの一箇月平均口數三千六百五十七口金額八萬二千四百八十七圓とす

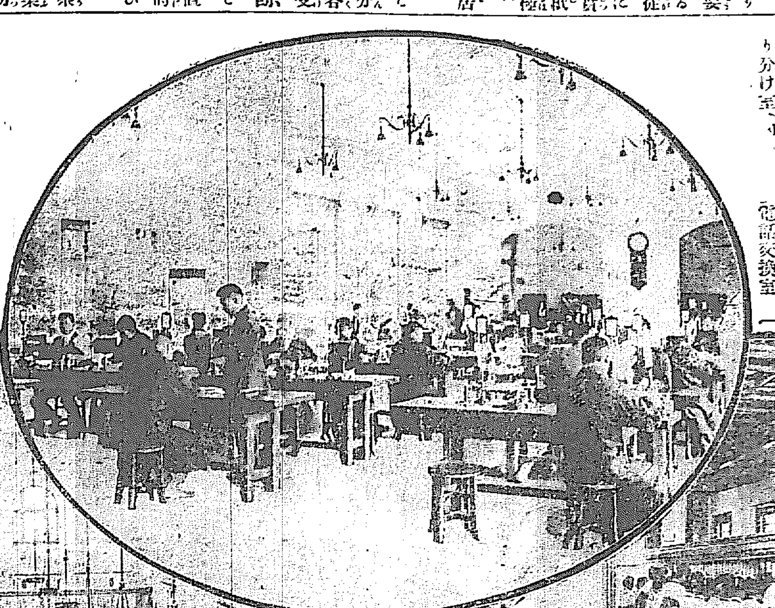
▲郵便取立金 取立及び拂渡に於ては(一)代金引換は代金引換郵便物を引換に又(二)集金郵便は自局窓口に於て又は集配人をして支拂人の居宅に就き委託者の發行せる現金受領證又は貨物引換證等と引換に現金を取立て委託者に送金する方法にして其一箇月の取立數平均七百二十口金額一萬九千四百八十九圓又他の郵便局所に於て取立濟のものを拂渡すもの一箇月平均四千八百九十三口金額三萬四千八百七十七圓なり

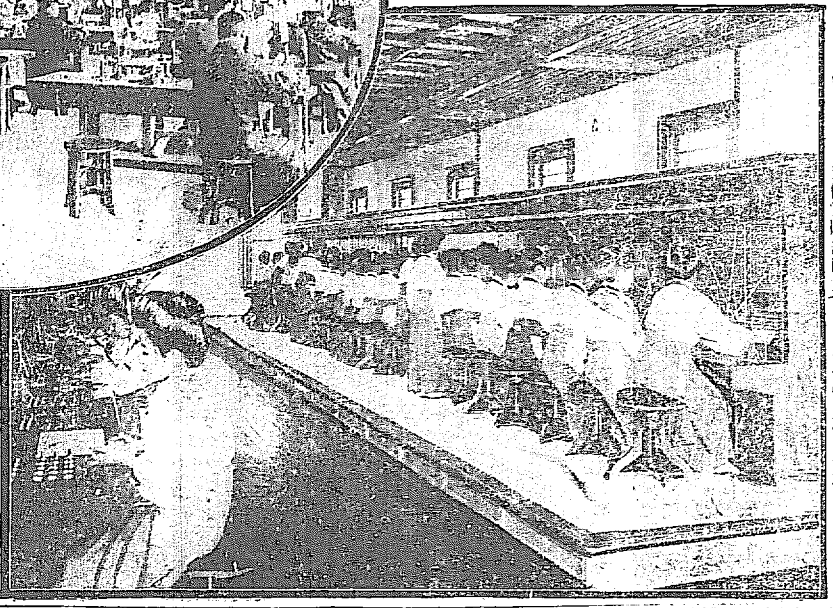
▲郵便貯金の受拂 (一)現金預入は主として學生等の利便の爲に郵便切手を以て預入する(二)切手預入は償還開始の各種公債證書勸業債券貯蓄債券其他の地方債券及び其利札を以てする(三)證券預入を合せ一箇月平均二千百七口金額一萬八千七百九圓にして其拂渡は一箇月平均七百三十二口金額一萬五千四百圓なり、郵便貯金は官衙學校工場等多數の預入者ある場合には吏員を出張せしめ取扱ひ又各種公債證券、勸業債券貯蓄債券拓殖債券日本興業銀行債券等の保管を取扱ふ

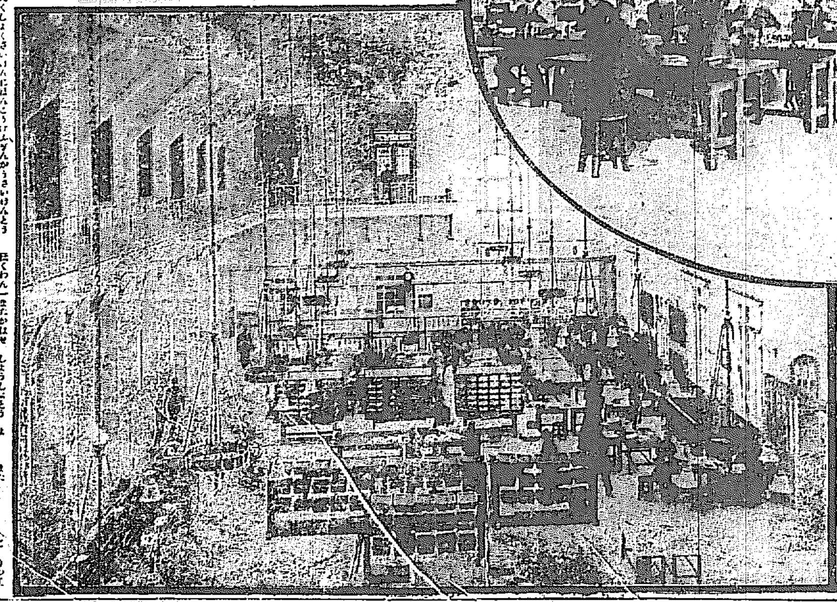
▲郵便振替貯金 東京爲替貯金局大阪及び福岡爲替貯金支局大連臺灣振替貯金部及び朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所に於て加入者の爲めに口座を設け加入者又は其他の者より口座に金錢の拂込を受け及び加入者の請求に依り拂出を取扱ふものにして京城局に於て拂込人が(一)現金又爲替證書等に依り又は(二)小切手に依り又は(三)集金振替貯金に依り拂込を受くるもの一箇月平均口數八百三十一口金額六十二萬千四百七十一圓にして其拂渡は(一)普通拂渡(の)(二)局待拂(豫め印鑑を差出し置き加入者の爲に當局と管理所間を電話に依り照會後に拂出すもの)とを合せ一箇月平均口數八百六十三口金額五十四萬六千六百七十五圓の割合なり

新築京城郵便局の内部

郵便物還り分け室 電信室 電話交換室







▲電話使用料 通話料及び郵便切手類收入印紙代金の收入は一箇月平均五萬六千三百六圓なるが此外居宅拂は各種爲替證書及び振替貯金拂出證書に對し受取人の居宅に就き現金の拂渡を取扱ふ年金恩給支給事務としては勳章年金、文官恩給、陸軍及び海軍の人恩給、學校職員退隱料、巡査看守等退隱料、外國人恩給を合せ受給者總數百七十二名一箇年支給總額二萬七千八百六十一圓なり

■郵便集配人の勤續者

普通の商店とか會社とかであつて見れば、勤續十年乃至二十年等の者があると、多大の賞を與へて其功績を表彰するのであるが、朝鮮では未だ郵便集配人等の選奬規程が設けられて居ない、内地の地方によりては郵便集配人の勞を犒はうと云ふ美しい心からして盆正月の二季に若干の金品を贈ると云ふ樣な美風もある、併し京城にはそれさへないのは遺憾である、京城郵便局に數多ある郵便集配人の中で左の五人は最も長き勤續者であつて京城局でも何等かの方法を講じて慰勞したいものだと云つて居る

廿一年一月 集配人取締 竹本久次郎
二十年一月 同 和田休市
十一年 郵便夫 石井勝次郎
十年九月 同 田口重藏
十年四月 同 加賀爪八十吉
(大正四年九月末日現在)

▲手形交換拂 は局員を京城手形交換所に派出し小切手及び證券の交換受入及び郵便爲替證書外國爲替證書郵便取立金取立濟通知書及郵便振替貯金拂出證書の交換拂渡を取扱ふ八月中當局より交換に付したる證券及小切手類千四百十一枚金額四十四萬九千五十八圓にして交換拂渡を爲したる爲替證書類は四千七百八十五枚金額四十四萬九千五十八圓なり以上の外府部内關係に於て同局は京畿、江原、忠清南北道所在七十四郵便局所に對し爲替資金受授の衝に當り各郵便局所に於ける過剩金の納付を受け及び拂渡に必要なる資金の交付を取扱ふ其受拂一ケ月平均千二百六十四口金額九十三萬四千七百二十二圓にして是れに從業する吏員十一名なり(未完)

銘酒 豐乃光 特五十五錢 上五十錢
釜盛 並四十五錢
並に燒酎卸し小賣(酒券あり)
釀造元 占野酒造場 光州本町(電話五十一番)

自製品目
素麺 饂飩 浮粉 燒麩 製餡 製粉
乾物 雜穀 糯粉 醤油
卸商
釜山富平町二丁目
(T) 阿部本店
電話(五七七番) 振替京城(二四九番)

祝共進會開催
釜山船具商組合(いろは順)
釜山本町一丁目 稻木丈一商店 電話五一二番
釜山佐藤町十六番地 橋本商店 電話六七三番
釜山南濱町一丁目 濱田規商店 電話七〇六番
釜山南濱町一丁目 河野卯商店 電話五一六番
釜山南濱町二丁目 中村久藏商店 電話九二八番
釜山南濱町一丁目 福島源次郎商店 電話九五九番
釜山本町一丁目 福島喜三郎商店 電話二一八番

祝共進會開催
新刊 圖書雜誌賣捌
外文房具一式
釜山大廳町二丁目
大阪屋號書店
振替口座京城二八〇九番 電話四九五番

祝共進會開催
朝鮮大邱東本町 越智商店
大邱三笠町 越智製紙工場

(越) 諸官署御用 諸紙封筒 製造發賣元

祝共進會開催
釜山牧の島 鑛泉場

祝共進會開催
釜山漁港内
香椎漁業事務所
電話五四一番

祝共進會開催
釜山府辨天町
大池本店
電話(長)二一九番 (長)七六三番 八二四番

祝共進會開催
原鹽 弊店經營に係る關東洲、普蘭店、天日鹽田產並に青島產
再製鹽 絶影島各製鹽場特製品
▲品質は當店理想方法に依る水分少なき優良品に有之候
▲檢量又は包裝には直屬の監督を以て正確に取扱可仕候
▲貯藏豐富に付何時にても御注文に應じ御供給可仕候
▲御取引の方法は精々便利に御相談可相願候
釜山幸町一丁目 合名會社小野商會内
(七)合資會社 鈴木商店鹽業部 釜山出張所
電話二五七番

祝共進會開催
釜山本町二丁目
迫間本店
電話[illegible]番

逸品多き共進會美術館

見事な高麗燒と考古學者が涎を垂らす考古品に名畫

陳列の名畫

美術館東階上の陳列は朝鮮古代の繪畫である、併し朝鮮の繪畫は佛像や影刻の如く古き時代のものが尠いやうに見える、先づ新らしいところでは楊石然の描いた白鷺の畫があるがこれなども一寸人目を惹く作である、次に支那人楊潔林が阮堂に**贈つた鐵拐仙人の像**と阮堂から御禮に贈つた繪の墨蹟も頗る面白いものである、又中央の棚には大きな朝鮮の佛畫があるが手や腕のあたりの寫法が頗る不自然幼稚なるにも拘らず朝鮮の佛畫としては非常に面白いものであるといふ

▲金剛山旋鳳寺の寶物拆檻の圖は哀帝（痛宗）の落款あるものでなか〱の珍品であるが由來朝鮮の巨刹には昔しから王室所藏の名畫や外國から贈つた美術品などを王宮から寄附したものだ往々日本**足利時代の名畫などが朝鮮の寺に**所藏されてゐるといふことだ

次に觀察使歡樂の圖といふのは今から三百年以前の作で平壤の土地と風俗を描いたもの全部は八枚の幅であるが陳列されたのは五枚のみである、又灘隱の竹も面白い作である、筆者は壬申の役日本軍に當つた李朝當年の王族で戰の爲めに傷いて右手を失ひ爾來**左手で筆をとつた人**であるから此の竹の繪も左手で描いたものであらう、次に金明國筆天柱既月圖といふ

▲三百年前の南畫もある又李朝に於ける唯一の畫家壇園金弘道の繪には變な花鳥を描いたものが一幅あるが此の人は元來人物畫殊に仙人などが巧いので陳列替の前までは此の陳列棚中で異彩を放つてゐたが這回のは甚だ振はぬやうである、又玄齋の虎は朝鮮人の描いた動物の畫としては極めて珍らしいものである、元來朝鮮の畫家は動物が拙手で虎なども寫生的なるものは尠いとのことである、次には作者不明の龍虎對幅も觀物であるが鮮人は往々**虎の子と豹の子を混同して描く**といふさうだ、美術館の繪畫部は時々陳列替をする、現在のは第二回目の陳列である。

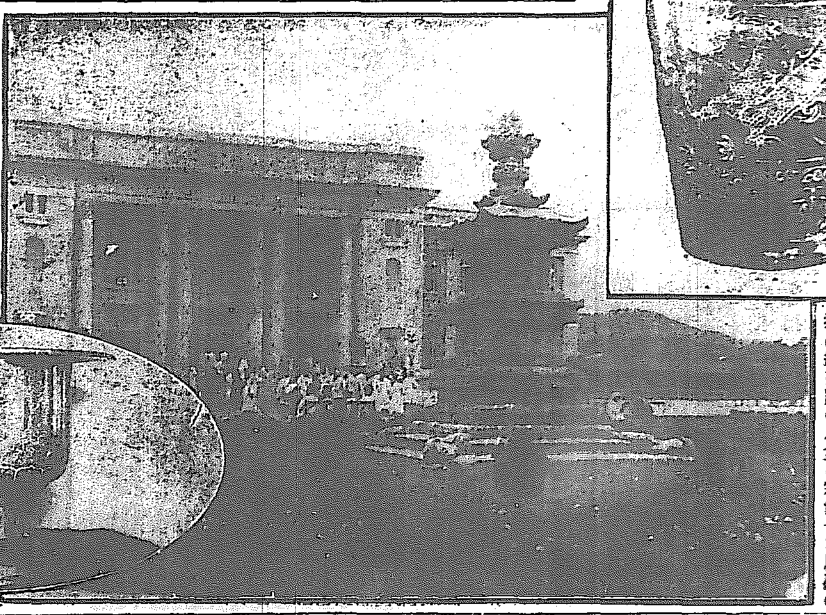
考古學者の垂涎

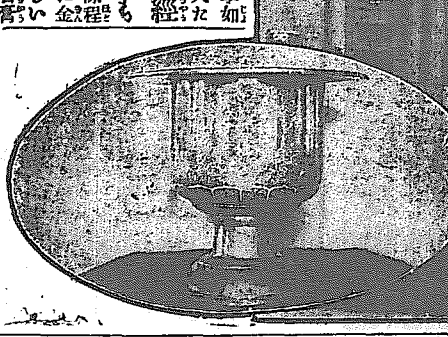
美術館階下西側の一室には高麗李朝兩時代の美術品、考古品、發掘品等が陳んでゐる、先づ高麗朝時代の鍍錘、鏡、香爐、箸、匙子、藥盒、印、經爽、通貨など其の多くは古墳の裡から發掘せられた古代の副葬品を始め李朝時代の甲冑、螺鈿細工等が數多く陳べられて考古學者の垂涎禁じ難きもの許りである、先づ其の高麗朝の香爐を見るに其の多くは支那**元明時代の作品に模した青銅銀象眼の古色蒼然**なるもので何れも各地の巨刹に傳はつたものである、中には純朝鮮式の型や寺刹の名を鑄つた香爐も尠くない、又發掘品の中では種々なる

▲副葬品が澤山あるが朝鮮の特長は純金及び純銀製品が多いのでこは内地などには餘り見られぬ點であるといふ、殊に印は卍字其他の文字を鑄つた謂ゆる内地の糸印であるが内地で考古學者に議論多き**糸印が朝鮮に來ると非常に多く**朝鮮のは又金遼等滿洲方面の民族から傳はつたものである、次に古墳から出る古錢は和漢共にあるが特に朝鮮のは純金、純銀の古錢が多く**内地などに類例なきものである**、次に長さ二寸幅一寸位の經文を入れる經莢もあり銀象眼の寶銅瓶、青銅瓶花器（便器）等も面白いもので特に朝鮮の古鐘は龍頭に旗指をつけた特徴があり

▲周圍に天女を鑄つたのも珍らしい、其他朝鮮にも眞言宗があつたかと思はれる五鈷鈴、三鈷鈴から高麗時代の青銅板鐘（磬に似たもの）も出品されて又鐘には支那の漢、宋、元、明各時代に模したあらゆる型の出品がある、又全州から出た新羅時代の梵鐘も其緻密な紋樣が珍しく何れもとり〲に好箇の參考品である、又北側の陳列棚には總て李朝時代の美術品であるが先づその香爐の影刻を觀ても李朝の模樣は一般に寫生的となり個々古風に模したものはずつと技巧が落ちて來る、隣りの**金色燦爛たる甲冑は元代の型**に模したもの李朝は明を崇拜したから元に倣ふのは可笑しいが兎に角御大將の着用したものでむかし王室には總て廿八着あつたものが閔妃の時に散逸したもので又高麗朝のは現物なきも石人の影刻で解る、次の經机は螺鈿細工の美しいものであるがむかしから**朝鮮の螺鈿細工は優秀である**。さて

共進會美術館と逸品（上）高麗燒三島手花瓶（下）大香爐





又階上西側の室には西山大師や李如松、松雲の墨蹟、袈裟等があり又た**有名な海印寺の大藏經六千八百五卷の大冊も**ある、殊に高麗時代の寫經は餘程見事な筆で書かれてあるが紺地に金泥文字、白地に金泥文字は珍らしいものである、終りに階下壁間の石膏半肉塑像は慶州石窟庵の彫刻そのまゝを製作したものである（李王職八木奘三郎氏談）

見事な燒物類

美術館内階下東の陳列館には佛像に續いて朝鮮の燒物がある、青磁、白磁、三島手等が其の骨子を爲してあるが朝鮮高麗燒の特長なる冴えた空色の青磁を始め、古雅掬すべき三島手の逸品支那製ともまがう白磁の數々等何れも入掘者の感嘆に値せぬは無い、先づ青磁の主なるものには影刻の水盤を始め盌、盒、花瓶、水注等の逸品が陳べられ型といひ色合といひ光澤といひ何れも長嘆すべきもの許り殊に詩句を書いた大きな花瓶などもあつたが最も感心すべきは其の模樣に描かれたる花鳥其他の纖微なる圖案が何れも土や鐵粉を象眼として精巧を極め他に類例の無きものである又青く冴えたる**雨過天晴の色も高麗燒の特長**であつて支那の青磁程濃厚になく（地色は共に鼠色なれ共）其の澹き

▲天晴の色合が實に鑑賞家の垂涎禁じ能はざるものなりといふ猶ほ繪高麗の小盒に彩色せる辰砂の色彩の如きも實に見事なる出來榮えであるが、次に茶人などの喜ぶものは繪三島、刷毛三島などがあるが從前之を高麗燒と總稱したもの、中にも其の窯を調べて見ると**李朝初期の製品も尠からず**との**事である**、又三島手は開城附近（主に黄海道燒）のものよりも慶尚北道、忠清南道地方のものに雅味ある品多く京城北漢山附近の**三島の如きは三百年前後のもの**といふことであるが仔細に見ると仲々に面白い特長を發見する、次に森勝次氏出品の青磁牡丹象眼大瓶は青き空色の地に大なる

▲牡丹花を前後に描きたるが這は高麗燒として其大樣簡單なる模樣が頗る珍とすべきである、又白磁は今に至るまで其の製藥を發見せぬ中には製法技巧の支那白磁に酷似せるを以て朝鮮產たるを疑ふ人もあれど作は無論朝鮮のものである。白磁には些の青味を帶びしものと乳色のものとあり且つ小鑵大鑵の二種あれど色は燒方により變化し青きは還元炎燒、白きは酸化炎法を用ふるのであると、殊に鳳凰白磁水注の唐式に模したる逸品の如きは**我が正倉院の寳物にあるもの**と同型のものである。

新たな陳列品

共進會内美術館の陳列品は第一回の陳列換へを行つた、その主なる部は二階の繪畫部全躰の掛換へと階下の東側の佛像を二階の西側に移しその數をも増したのとその後に燒物を陳列し又た二階東側の二個の大戸棚に**新しく總督の印刷させた海印寺藏版の高麗版の大藏經**の一部中樞院に保管せるものを陳列した等であるが繪畫部に新しく出陳せられた物を一見すると國分三亥氏の出品下向壁和齋の『犬猫』（百十年前）同じく金得臣兢齋の童牛圖（九百五十年前）金谷充氏の出品李寅文の十友圖（九百年前）鮎貝房之進氏の出品阮堂（金正喜）の筆蹟、昔川廣濟氏の同じく阮堂の墨蹟、それから風俗繪では旌善郡守の出品になる觀察使歡樂の圖の**平壤風景の中に驕りを極めし觀察使の遊樂**を描いたものや進辰馬氏の出品朝鮮使節の圖の繪卷物等、又書帖では久芳直介氏の出品李慶胤駱坡の筆になれるもの（三百五十年前）樫園の神化無跡、佐々木氏の出品謙齋の描けるもの等が大いに一般の注意を惹いてゐた、その他水越理兵氏の鄭猶謙齋の陶淵明の圖、工藤壯平氏の宣祖王の墨蹟時代未詳の佛畫等見る可きものが尠くない、大藏經は二個の戸棚にギッシリ積れてあるが、**文字も鮮明で製本と云ひ、紙質と云ひ表裝と云ひ、行き屆いて立派なもの**である

祝共進會家庭博開催
鎭南浦　中野太三郎

祝共進會開催
材木商（登錄商標）
仁川濱町　大二商會
電話五〇一番

祝共進會開催
建築請負業　沼波石松
仁川萬石町　電話七五二番

祝共進會開催
船舶代理業　山下吉藏
仁川本町一丁目　電話一〇八番

祝共進會開催
歐米雜貨卸　織物輸入問　被服雜貨　織物移入屋
仁川港宮町　伊福長助商店
長電話百五十二番　振替京城二百八十番　電略イフク（又）ヘフク
清國青島佐賀町二五號　伊福長助出張所

祝共進會開催
最上醬油
仁川　釀造元　高杉醬油釀造場　電話七六五番
仁川海岸町二丁目　貿易商兼回漕業　高杉昇商店　電話五九番

祝共進會家庭博開催
元山水力電氣株式會社
電話四三三番

祝共進會開催
清酒　振天　双喜　正宗
酒　平生　榮菊　友千鳥　發賣元
穀物貿易商　清酒釀造業
仁川　吉金喜三郎商店　電話七六四番
天安出張所
馬山出張所

祝共進會開催
日鮮向雜貨　輸入貿易商
平壤　河野支店
鎭南浦　河野支店
安州　河野出張所
宜川　河野出張所
仁川本町四丁目　河野本店
電話二二八番、二八番　電信略號（カ）　振替京城一一二番

祝共進會開催
仁川本町四丁目　光田造船部　電話二五六番
仁川濱町四丁目　光田鐵工部　電話三〇五番

祝共進會開催

平壌酒醤油同業組合（いろは順）

大同門通 伊藤商店 電話一二〇番
旭町 原商店 電話三八番
壽町 小野茂商店
大和町 大塚出張店 電話四八番
大同門通 河野支店 電話一一五番
鏡齋里 漢湖商店 電話二三五番
本町 梶川支店 電話三二二番
旭町 田村酒場
驛通り 中村酒造場 電話一六五番
本町 中田酒造場 電話五三六番
本町 植田支店 電話三六番
泉町 内田醸造所（電話一三七番）
本町 窪田酒造場
大和町 桑田支店 電話一六三番
旭町 仝支店 電話五〇番
驛前 松岡酒造場 電話二九番
道廳通旭町 小森商店 電話三一二番
大和町 江口支店 電話六二番
旭町 朝日酒場 電話六一五番
鏡齋里 宮川商店 電話五五番
大和町 三巴支店 電話五一一番
大和町 清力支店 電話一〇四番

祝共進會開催
祝家庭博開催
土木建築請負業
平壌港町 大橋組
長電話一三八番

祝共進會開催
日鮮人向雜貨
仁川本町三丁目
井上藤吉商店
電話一八六番 振替京城一〇〇番

祝共進會開催
祝家庭博成功
御大典記念特製品
御紋付御袴地種々
冬物新柄荷揃仕候
平壌大和町
丸橋呉服店
電話四六番

祝共進會開催
貿易米穀商 委託賣買
仁川新町一丁目
松高野周三郎本店
電略(タ)又(タカ)長電話八一番
精米業 籾摺
仁川宮町三丁目
松高野精米所
電話一三〇番
清酒釀造
仁川宮町二丁目
松高野酒場
電話二四二番
ゼ、リバプール、エンド、ロンドン、エンド、グローブ保險株式會社 仁川支店

祝共進會開催
土木請負業
江華島花崗石販賣
仁川萬石町
稻田組
電話 本店萬石町四一四番 出張所税關構内四一一番 同所四一〇番

祝共進會開催
祝家庭博開催
おもちや
京城本町郵便局前
岩田北陸堂
電話二四八七番

營業科目
撫順炭特約販賣
海陸運送業
内外船舶代理店
沿岸荷物取扱
仁川本町四丁目
野口商會
（電話一七三番）

祝共進會開催

最上醤油
於明治拓殖博覧會金牌受領
芳香風味 滿鮮逸品
朝鮮平壌
宮川商店
長電話五五番 振替京城七四番

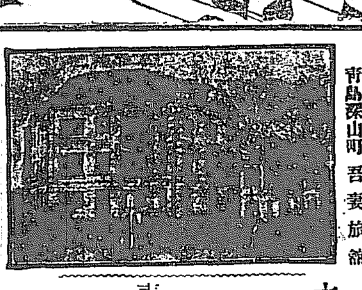
祝共進會開催
祝家庭博開催
醫療用藥品器械、理化學用藥品器械、鑛山分析用藥品器械、最近新藥類一般
ヨグルド發賣元
本店 東京日本橋區本町四丁目
朝鮮總督府警務總監部中央試驗所 總督府醫院 御用達
東京島久京城支店
京城明治町二丁目六十三番地
電話一四四四番・振替京城六七七番

祝共進會開催
滿洲水産株式會社
電話（一五七）（五三三） 振替大連四〇番
旅順支店
電話六五

祝共進會開催
總督府度量衡器販賣所
綿糸綿布卸商
(赤)
仁川京町一丁目
赤松商店
電話七六六番 振替京城二三三番

祝共進會開催
仁川桃山町
醇良日本酒
若翠二羽鶴
澤龜宅正宗
韓陽一光武
樽詰弁壜詰
發賣元
宅合名會社仁川支店
電話六四番

祝共進會開催
青島深山町 吾妻旅館



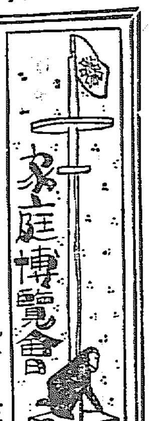
大連美濃町五號地
吾妻旅館本店
電話六四六番
青島深山町深山公園町
吾妻旅館支店
電話二五〇番

祝共進會開催
日鮮人向雜貨輸入商
仁川本町
鈴木倭商店
電話一二一番 振替京城一三三番
日本生命保險會社代理店
横濱火災保險會社代理店

祝共進會開催

仁川金物船具商組合（いろは順）

仁川本町三丁目 電話二七番 德本商店 振替口座京城三六四番
仁川海岸七丁目 電話七番 加來商店 振替口座京城二六〇番
仁川本町二丁目 電話五六番 村谷吉藏本店 振替口座京城五九番
仁川本町一丁目 電話二〇番 村谷勘一商店 振替口座京城六一番
仁川新町一丁目 電話一一八番 美濃谷本店 振替口座京城八三番
仁川本町四丁目 電話一一六番 白神洋行 振替口座京城九二七番



家庭博の運動場から

一箇聯隊のベンチ代理部で買た安い本=怒り坊主の安さんカチカチ山は直出來る本の上に猿がゐたオイ

本社主催家庭博覽會の盛況

僕は何時であつたか家庭博見物を書いた太郎である。その後僕は夜間開場がお見たくつて一人で遣つて來た、成程、會場の中は明るい電氣が一杯點いてゐて

■素的に綺麗だ つたが、それより僕は運動場に出て、すつかり氣に入つて了つた。運動場の眞中の高い柱の上に大きな白熱燈が光つてゐたので晝の樣に明るい。運動場は可なり廣いがそれより驚いたのは木製の折椅子が其處此處に一杯り、一個聯隊程ある、僕は生れつき、物を勘定する事が好きで未だ小學校に入つたばかりのとき、或る夏の頃だつたと思ふ、凉臺の上で空の星を勘定し出したら、姉さんから『太郎は馬鹿だ』つて言はれて怒り出した事があるが、此處でも

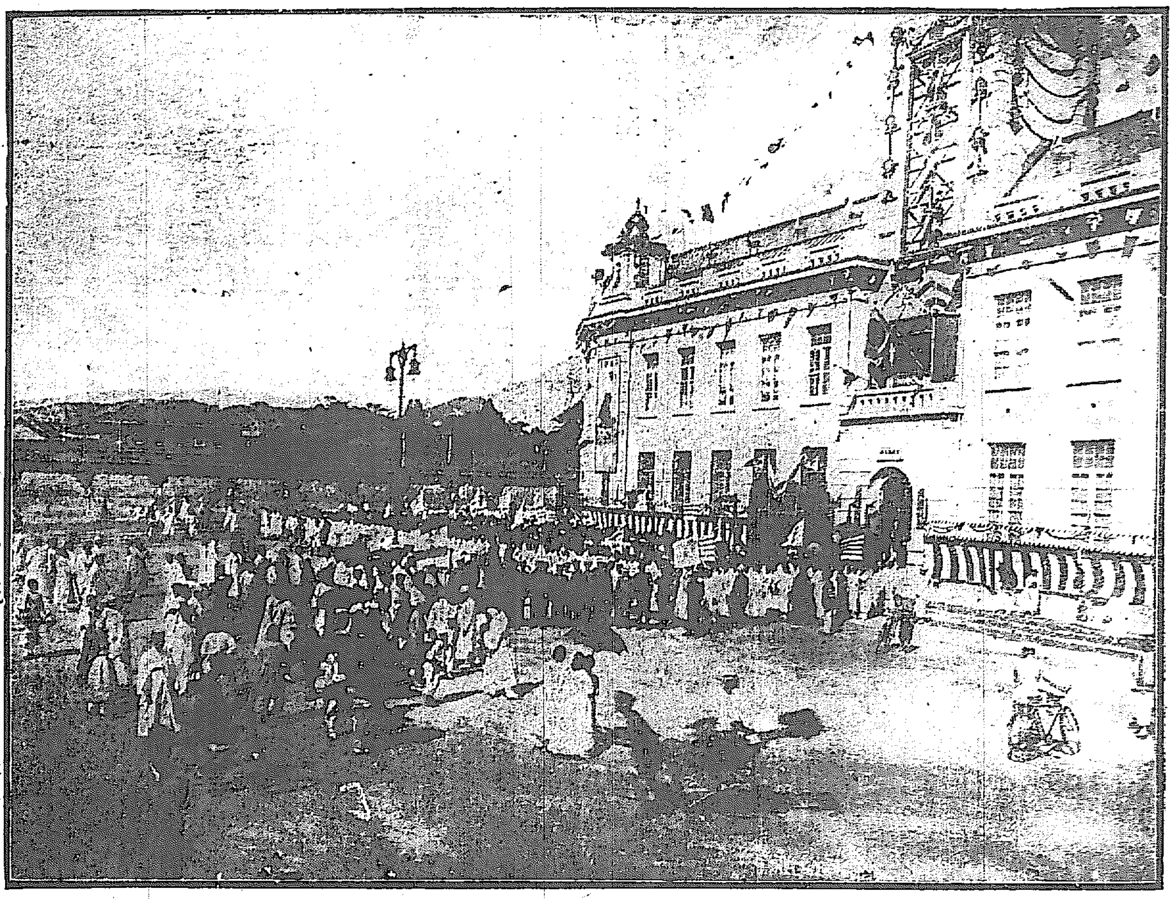
■又例の計算癖 がむらくと起つて椅子の數を勘定して歩いたら百八十ばかりあつた。姉さんがゐたら乾度又皮肉を言ふだらうと思ふが丁度一緒でなくつて幸ひだ、こんなに椅子があれば隨分便利に違ひない、椅子に倚りかゝつて樂しそうにお菓子を喰べてる人、話をしてゐる人、本を見てゐる人などいろくある。運動場の向ふ側で蓄音機が鳴り出した、默つて聞いてると浪花節をやる、義太夫をやる、子供の唱歌がある、西洋の音樂がある、その

■前は澤山の人 が集つて感心して聞いて居るけれども蓄音機と言ひ、活動寫眞と言ひ薄つぺらなもの、嫌ひな僕は聽きたくなかつた。それでも綺麗な本が並べてあつたのでその前に立つて見た、本屋の番頭にしては少し離かし過ぎる髮を短く刈つた瘠せた叔父さんと、赤い顏の娘さんがゐた、お伽噺の本や繪葉書やいろくある、僕は七錢三枚一組と言ふ家庭博の

■繪葉書を買つ て切手も買つてゐるといふから、東京の叔父さんと、家の姉さんに出して遣つた、明日の朝配達されたら姉さんは吃驚するだらう、海國少年といふ本が面白さうだから『幾何ですか』つて聞いたら『あなたは入場者だから三割引にして上げます』と髭の叔父さんがいふ。そこで三十五錢といふ定價の本を廿五錢で買た『此處は京城日報社代理部のだから安くするんです』と

い。それからカチカチ山の方に行かうとすると止まり

■木の上に猿が ゐたオイ



猿』つて言つてやると、齒を剝いて向つてくる眞似をした子供だと思つて馬鹿にしてゐるのである。生意氣な猿だと思つてウンと苛めてやつた柱へ昇つて搖り出した、怒つたのだらう、それが面白いので皆と一緒になつて散々調戯つてやつた。そして飽いて來たからカチカチ山に登る初めのうちは馴れないから横の階段から登つたが

■二三度馴れる と何でもない十歩ばかり先きから驅け出して行つて、その勢ひで驅け登れば何でもない、四十五度位だらうと思はれる急傾斜の板山を手摺に捉まらずに上れる、そして又手放しで降りて來られる、手放しで降りてくるとき氣を付けぬと下の方に來て腰を打つが馴れて見ると頗る面白い。僕は何時までもやつてゐたが限りがないので

■賣店を見て遣らうと思つて、賣店の並んでる所へ來た。朝鮮土產を賣つてる津村兄弟商會、大阪櫛谷商店出張のステツキ、松風軒のバナナ羊羹、肥後名產生花器、加賀名產九谷燒などといふものを賣つてる店がズラリと並んでゐる、その傍で恐ろしい黃色い聲で何か喋舌りつゞけてゐる男があつたからハテ何だらうと思つて見ると專賣特許野菜器といふものを賣つてる、その隣りには野菜、果物、海草などを材料とした

■菓子の製法を 教へてゐるその前には婦人が澤山立つて熱心に見てゐる、流石に家庭博だと思つた此の外朝鮮堂出張所だのミルクキヤラメルだの休憩所があつた、主に家庭用のものばかりで僕等の買ふものは無かつたから何にも買はずに歸つた

休憩所巡り

慶會樓上の接待

京城協贊會の休憩所は前記の二個所の外に慶會樓の建物を以つて當てられてゐる、その階下には椅子ベンチ數十を石柱の彼方此方、或は池畔に沿うて置き、委見付きの帽子掛まで用意されてゐる、內地からの

■團體客は一々ことに招 待して茶菓を饗應してゐる勿論一般の人の出入休憩も自由である、階上の昇り口には協贊會の名譽會員、特別有功會員、有功會員、特別會員、甲種優待券御持參の方には樓上にて御休憩下され度候といふ意味が掲示されてある、內外地名の士の聞膳歡覽者は多くこの階上に招待されて組酒肴ながら晝食の饗應が出る、共進會の女房役

■の仕事だもの、今更その大仕掛けを喋々する程のこともあるまい吾輩にも名譽會員位のつもりで堂々と樓上を御徜徉遊ばすと大院君の偉業や當時の有りしさまも偲ばれて身は史中の人と爲つた思ひ……肯に協贊會の紋つきたる紋服銀鼠の袴穿きたる一美人のすゝむる一杯の茶にグツと喉を濕して椅子に倚つた氣持……貧書生の吾輩にはチと勿體なき感あり……慶會樓を後に廣告塔の下まで戻るとそこには忠淸北道の休憩所がある、ベンチの色鮮かな

■一構、モールや提灯を飾り白木のベンチが整然と列を爲してゐる、こゝも觀光客で一杯、一寸敬意を表すると忠北案内を一部下さる、お茶が出る、お菓子が出る、廣告塔の向ひ側には朝日新聞の小綺麗な休憩所がある、白のカーテンが風に搖れて新聞を熱心に讀んでゐる客が三四人見受けられた。

最後に江原道

吾輩の休憩所歷訪もこれでお終ひである、共進會場案內の地圖と首引きして各道の休憩所を探して廻つたが咸北と江原道がどうしても見付からぬ、見付からぬと思つて探して居たら咸北のは全く無いのだから見付からぬも道理、江原道の休憩所

■に至つては、獨り驅け離れて、共進會場、美術館裏、臨益水利組合の模型の彼方、江原道產の木炭の出陳されてゐる小屋のお隣りに設けられてゐたので、協贊會場をいくら索ねても無い筈だ、他の

■休憩所がすべて賑かな雜沓の中に在るに引換へ、こゝは又片田舍の思ひある閑靜な地域、大地をそのまゝ青天の下に築かれた大正、臨益の大模型や鴨綠、豆滿、漢江の材木の並べられてゐる邊り、白の幔幕を引き圍らした四阿の中には金剛山中の奇峰、幽邃な淨地の風景寫眞が飾られ、五色の

■モールを縱橫に張り廻した白木造りに家根は木皮といふ淡したしつらへ、溢るゝばかりの觀光客の間を甲斐々々しく內鮮の美人が斡旋して茶菓をすゝめてゐるも殊勝な氣なり、吾輩は休憩所の一つ／＼をこゝに殘らず拜見して審勢館內に各道の陳列を見て得た印象と共に

■朝鮮全道を鞋穿で旅行した樣な氣分が頭の中にいよ／＼色濃く往來するのを覺えた、その一つ一つ有つてゐる地方の色がぼんやり乍ら見えるのも面白いなど、吾輩の獨がてんよろしくあつて幕—

▲廣告▼

被服拂下
一黑色外套外拾點
右賣却ス詳細ハ本月二十九日以後ノ朝鮮總督府官報ニ在リ
朝鮮駐劄軍經理部

購買 玄米 精米
詳細ハ九月三十日以降ノ朝鮮官報ニアリ
龍山陸軍倉庫

▲▲求取扱店 一府郡一名
勸業債券 貯蓄債券 一圓濟崩 月掛便販賣
希望者ハ規定郵送す
東京芝區櫻田備前町一番地
明治產業株式會社

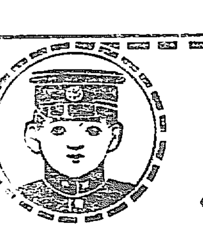
八千代碁石
白石は蛤貝 黑石は那智石
使用に適し新聞紙上及同好者より好評
八千代碁石製造販賣店
▲見本送附は郵券二錢要す

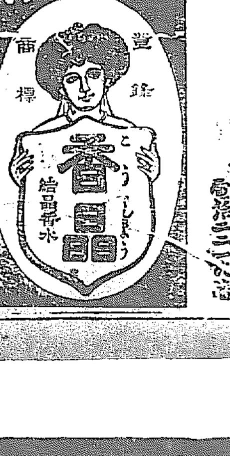
商品目錄送呈
袋物卸商
大阪南御堂前
米谷新助
電話長東四五一番 振替大阪五八番

入會の最好期＝新學期開講＝獨習者の福音
英語講義錄
學科 初等中等高等の三科に分ち
講師 は現今一流の大家を網羅し
講義 は親切明快何人も容易に習得せしめ
設備 は新機軸を以て無比の便宜を供せり
內容見本 設備詳細 會則 業書にて申込次第進呈
東京麴町區富士見町六丁目 電話番町三四七〇
大日本國民英語學會

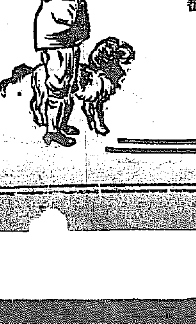
十月一・二・三・四・五日
冬物大賣出し
京城本町
㋟ます屋吳服店
電四八三番

特價品
日ノ出向鳥印學生帽子
最大の特色 全國均一の販賣値段
A號 一個 金壹圓
B號 一個 金八拾錢
C號 一個 金六拾五錢
□實質に價格より數等の優良品なり
□發賣以來御注文が未曾有に激增せるは一に御信用の賜なり
□益々良價の發揚に努力致します。
□御最寄の帽子雜貨店にて現品御一覧の上是非御試用あらん事を希ふ
元賣捌 東京 吉安商店


特許機械製
高等ほまれ帽
特約販賣元 京城黄金町 三巴商會 京城南大門外 大三商會


御覽下さい!!
朝鮮物產共進會
參考館に於ける
藤澤樟腦と香晶を!!!

□代理店
京城南大門通
新井藥房

祝共進會
愈々獵戰始る
內外國製獵銃
獵用火藥各種
散彈獵具一切
㊊共榮社
仁川仲町一丁目
電話長七五番
割引提供
諸願御用命次第定價表進呈


祝家庭博覽會

專門製造
革車、シャフト
メタル、カツプリ
製材機、精米機、調帶、ベレンス
其他附屬品並各種鑄鐵眞鍮砲金
鑄物及插物一切

弊商會は傳動機製造業者として十數年經營罷在候處幸に各地方諸會社及需用家各位より多數の御用命を蒙り居漸次隆盛に相向ひ候段偏に御愛顧の賜と奉深謝候益々弊店の主義たる製品の確實期日の迅速並に價格の低廉を發揚致候尚ほ製作品多數貯藏致居候に付何卒多少に不拘御用命程伏て奉懇願候

尚直段表御入用の節は其品目御指定御照會次第時價により正確なる御回答申上候

大阪市南區内安堂寺町二丁目
寺本商會
振替大阪二六八一七番
電話南四一五五 一六七三四番

第一工場 内安堂寺町二丁目
第二工場 南區南高岸町
第三工場 南區南高岸町南海線道私設寺本橋際 電話南四五六一番

本廣告切抜保存あれ

營業課目
蒲團 諸綿
毛布 膝掛
蚊帳 麻布
印ぬいめ近蚊帳
大阪市本町壹丁目角
西川甚五郎商店
電話本局 一五五八番 長五五九番
振替大阪 六九四番
△相場表御申越次第送呈

各地本支店
近江國八幡町 西川甚五郎本店
東京市日本橋區通一 西川甚五郎支店
東京市日本橋區通四 西川甚五郎支店
東京市日本橋區堀留 西川甚五郎支店
京都市寺町松原 西川甚五郎支店
豐後大分市 西川甚五郎支店
豐後杵築町 西川甚五郎支店

實用的
浪花みやげ
大阪京町堀
楠本の
看板
電話土佐堀九二番
振替大阪一五九五番

登錄商標 Ⓐ
角一ゴム合資會社

營業品目
自働車 自轉車 人力車 タイヤー
ゴム管 其他各種ゴム製品

其品質の優良なる點に於て其價格の低廉なる點に於て遙かに海外品を凌駕する所あり而かも克く國産奬勵の主旨に適する製品を汎く江湖に供給し得るは弊社の私かに誇とする所也

製品紹介
弊社製品は始政五年記念朝鮮物産共進會參考館内に出陳しあり冀くは御觀覽の榮を賜はらんことを
弊社製品は會期中賣店に於て特價を以て即賣す冀くは多少に不拘御用命仰付けられんことを

本社 大阪府西成郡浦江
電話土佐堀一八一〇番 長八一〇番
發信略號（カヌハカニ）
振替大阪 二一、五五〇番
東京出張所 東京京橋區銀座二丁目
電話京橋三一三〇番

活版製造
活版母型製造
活版機械
附屬品一式販賣
商標 Ⓐ
大阪市南區長堀橋筋一丁目（清水町角）
活版製造所
青山進行堂
電話南 九九七番 振替口座大阪九七番

帝國軍人教育會會員及び贊助會員に告ぐ
本會は今秋擧げさせ給ふ御即位式御大禮拜載の爲出京せらるゝ人に對し左の優待方法を設けたり希望者は最寄分團事務所又は支部へ申込あるべし
帝國軍人教育會接待部
本部 京都七條東本願寺御用地内
事務局 大阪中之島三丁目

御即位 行幸 奉拜

優待
◎大典奉拜 本接待部特設の場所に於て奉拜せしむ
◎東西本願寺 御親教御開扉御殿の拜觀法主猊下より記念品の御下附あり
◎伊勢大廟 大々神樂、御祈禱、御守札の御下附の大特典あり
◎指定旅館 模範的の旅館は各地に設けあり
◎汽車汽船の特別割引あり
◎御即位紀念として兩陛下御東帶の御尊影の下附あり
◎各地參拜 神社佛閣に於て記念品の下附あり

時下初秋、益御清祥の段奉賀上候、陳者弊店儀今般支店を左記に設置し「大阪本店」の營業方針に基き、誠實、勤勉、専ら品質の精選、價格の低廉を旨として江湖に見ゆる事と相成申候、[illegible]
大阪に發行する「寫眞新報」は海外に於ける新學説と日本に於ける寫眞界を知るに便なる關西唯一の寫眞雜誌にして弊店と取引せらるゝ方へは當分無代價にて差上申候間御希望の方は御遠慮無く御申込被下度候

上田寫眞機店
本店 大阪市心齋橋通順慶町北入 電話南二三〇六 振替大阪一〇八五
支店 朝鮮京城南大門通三丁目 電話五四九 振替京城三〇九五

ランチャードランプ
鐵道院 海軍省 府縣 御用品
赫たる光輝
世界一
少額の費用
商店、工場、土木、建築、鑛山、炭坑、漁業、庭園用として好評嘖々
目錄御照會あれば郵呈
（形態種々）
（三百燭光一時間石油五勺）
大阪市西區南境川町
電話長西二四八四番
京城府龍山漢江通八番地
望月特約販賣店
電話龍山三二番
京城南門外
森本販賣店
ランチャードランプ製作所

アルミニユーム板・線・地金
アルミニユーム器具・陣營具
眞鍮製機械盤
水道用品一式
日本アルミニユーム製造所
大阪販賣店 大阪市南區塩町壹丁目
東京販賣店 東京市日本橋區通油町

茶
大阪順慶町通四丁目
茶舖問屋
富貴園茶舖
電話 二二六八番
振替口座大阪一九二二番
京城南大門通り三丁目
特約店 一ウ鍋島商店

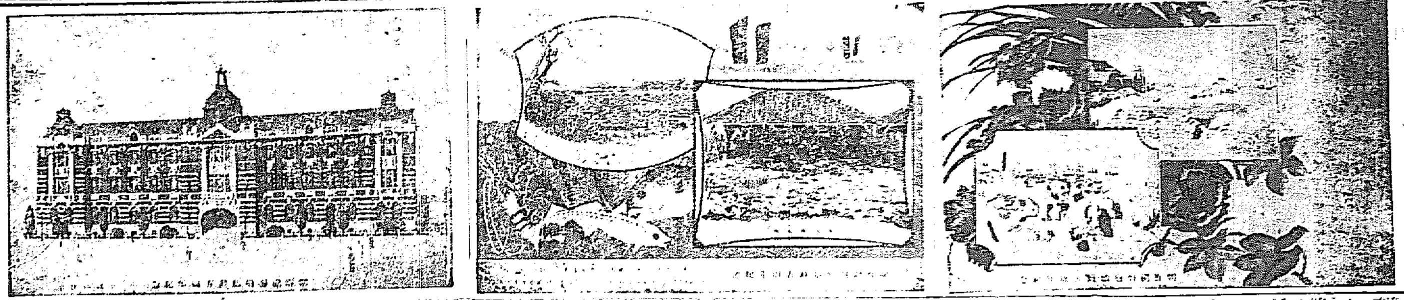
營業課目 テント名稱
陸海軍用 海水浴用 園遊會用 茶製造用 旅行用 漁業用 鑛山用 建築用
○テント貸も可仕候
日覆、鐵道貨車用、荷車用、荷覆、箱類、水器、陸海軍用

追々テント必要の時代に相成候處弊店は多年各種テント製造に從事し新式なる形狀と簡便と品質の堅牢なるとを以て價格の低廉なるを以て名聲を博し居れり
尚ほテント界の急先鋒たる使命を果さんが爲め益々奮勵努力可仕候間何卒多少に不拘陸續御注文被仰上度候

製造發賣元 宮武テント商行本店
大阪市北區南安治川通二丁目
市電東安治川總點
電話西三四六番
振替口座大阪一七二五四番
定價表及設計見積書御請求次第送呈

（明治卅九年九月十八日第三種郵便物認可）

京城郵便局の記念繪葉書



旅を終りて

神崎憲一

朝鮮、滿洲、臺灣三鐵道の踏破を爲すべく九月十一日午前八時四十分南大門驛を發し先づ京元線を元山に至り咸鏡線の終點文川を究め引返して仁川を訪ひ南行別府君と永登浦に分れ北上して平壤から鎭南浦を覗き更に北上安東で安奉線に乘替へ撫安から右抑撫順を訪問に引返し蘇家屯で長春行に乘替へ長春市街の大建設

■長春市街の大建設に驚き直に南行大連に到り旅順に寄り大連から商船哈爾賓丸に便乘して門司に赴き船を替て商船亞米利加丸で基隆に渡り直に南下臺北、臺中、臺南を經て打狗に到り數十分にして折り返し臺北に來り淡水線を往復し基隆から郵船因幡丸の客となり門司に歸り四日刻連絡船壹岐丸に搭じ釜山に上陸、馬山を見て引返し京釜本線を大田迄來て湖南線に入り裡里から群山に行き更に木浦を訪問、之で豫定の訪問を終り南大門に歸着したのが十八日午後八時二十分。經過海陸哩數五千百八十餘哩此間費やす所

■十八日と十一時間四十分乃ち四百四十三時間四十分。斯りに匆忙急遽な通過で各地の景物に走馬燈の如く腦裡を徂徠するに過ぎない。然も各地から贈られた報告や調査の類を囊底深く藏して來た取出しもしない有様なのだから纔に記さねばならないのは各地諸君の好意である。鐵道船舶關係の人々からは勿論其他各地の同業者諸先輩、行きづりに相會ひ相別れた人々も皆限りなき好意を表してくれた一事を感謝したい

■一刻を爭ひ一時も無駄に出來ない此度の行に依つて得たいろ〳〵の感じのうち船車連絡の主便に對する實驗は必ず擧られねばならない旅慣れぬ不安が次第に消え失て旅行は樂しいものと思ふ氣を起させる第一のものは船車連絡設備の完成と其時間の正確な事である。言はずとも其れは當然の事で然も之れこそは船車連絡第一の要務であり然してそれは又旅客をして第一の信頼を來させる此上もない事であるが其れが今更ながら出發前の不安や危惧や失ひたいと思はせられた、此汽車汽船を利用して旅行すると云ふ事を苦痛とせず快樂とする人の多くなつた事も幾度か見聞させられた旅行を愉快とすると一步を讓て苦痛とせざる事是れ軈て一國民の海外發展に至大な影響を與へる素質であると思ふ而して

■船中日本婦人の多くは船室深く閉ぢ籠り勝ちなのに反し外國婦人が如何にも樂しげに讀書し散步し書物しつゝ食堂を缺かさぬ態度は全く此根本の素質を備へてるものと思はせられた。嘗て母國に旅行して憾みに思つた事は母國在留の人々が相當の地位あり資格ある人であり乍ら朝鮮に對する智識の淺簿偏狹な事であつたが今回の旅行では更に更に其感を深うした母國在留の士が朝鮮、滿洲、臺灣に對して懐いてゐる所の嘆きのみならず

▲寧ろ惡意に誇張した誤解をしてゐる例へば臺灣と云へば四時炎熱熾くが如く常にマラリヤ其他の惡疫猖獗を極め恰も焦熱地獄でゝもあるかの如くに思惟してゐる然るに事實は正に相反し暑熱必ずしも高くないではないが夜と共に涼風綠樹より湧いて元氣一時に恢復するの思ひがある殊に天氣多く晴朗、不斷に貿易風吹き四時花咲き五穀二回の收穫あり正に樂園であり要するに母國在留民共殖民地の事情に通せず殖民地に在る者を徒らに卑下し侮視するの傾きがある強ひて言はゞ其徒必ずしも餘裕ある生活を爲すと云うでもなく寧ろ悲慘の生活狀態に在り乍ら口にのみ惡罵を放つて自ら快しとしてる是れ

■全く母國と殖民地との餘りに疎隔してゐる爲めである必要は其接近にある事情を知り合ひ知らせあふにある其責任が何れにあるか殖民地の官民よろしからざるか母國官民よろしからざるか今茲で論ずる限りでないが兎に角今回開會せられてゐる共進會の如きは最上乘の朝鮮紹介である五年間の經過、十三道の實狀一目の下に蒐つてゐる朝鮮で是れ丈けつとめてゐるのを見に來ないのは罪母國民側にありと言はざるを得ない幸にして歸京見聞するに朝野の官民雲の如く京城に集りつゝあるは大に快しとする所であるが更に尚ほ明年四五月の候に臺北に於て施政二十年記念物産共進會がある管て臺灣の官民は目下頻りに其宣傳に努力してゐるが母國在留民によりて朝鮮滿洲の在留民乃至新附民大擧して臺灣に向ひ其事情を知り以て母國對殖民地、殖民地對殖民地の近親を計り共に倶に榮ある大和民族の行くべき道を進む事に努めねばならないと思ふ

除事乍ら此行に就いて句を贈つてくれた野田心水、拜谷水哉兩氏に謝意を表する爲め茲に錄する事とする

御成功を祈る　心水

君にのみ凪げ二百十日二十日浪

豫備眼疾忘れざりし車窓秋晴る

海山五千哩十八晝夜の大飛躍を祝す

鯤化して大鵬萬里秋高し　水哉

夜間共進會入場券賣口の群集

■オンドル會詠草

◎鴨綠江の上流より　八月二十日に雪が降つて一寸餘り積りました、それで野生の人蔘掘りが挿山入り込んで非常に賑かです、一兩の實質相場は三十圓乃至四十圓だと云ふ事です…江岸は楓は既に霜紅に染めて冬が來たぞと脅して居ます（九月十五日惠山鎭にて鬼灯）

花野　逸庭

花野眞蒼を工夫の群れの流し唄

馬も歡喜を嘶く花野月に晴れて

手燭明りに抗道出て〳〵降ふ花野

○

花野果ての丘に鳴る教會の鐘　鴨原

○

御山裾の果樹園へ花野渡す舟

花野幾日を馱馬と來て驛の灯に生き

終點驛は水車のみ花野刷ける陽に　芳宙

○

川蒸汽煙らせつゝ湖を曳く花野

爆音に鑛山暮るゝ花野の明り　鳴原

三日月

ポストそこらに蟲澄る三日月の街

○

官舍園ふポプラに三日の月澄る

夜勤を歸る三日月の町は輕の灯　逸鹿

○

鳥騷ぐ樹の薄暗を三日の月

三日月に風呂焚ける藤ヒソとあり　月子

◎ミツワ石鹼

擔任技師　工學士　藤野太治郎　工學士　越智玉一郎

凡そ石鹼は、工業用、洗滌用、洗濯用、浴用、化粧用等各用途に從つて其種類を異にすと雖も、而かも皆等しく、遊離の脂肪なく、遊離の亞爾加里なく、些の混合物なき化學上の純石鹼たらざるべからざるは、素より當然のことなりとす。皮脂の分泌量多くして而かも粗髓なる本邦人の皮膚、及び漆黑を貴ぶ毛髮の洗滌に用ふべき化粧用石鹼は、啻に化學上の純石鹼たるの故のみを以て、其適否を論ずべからず。

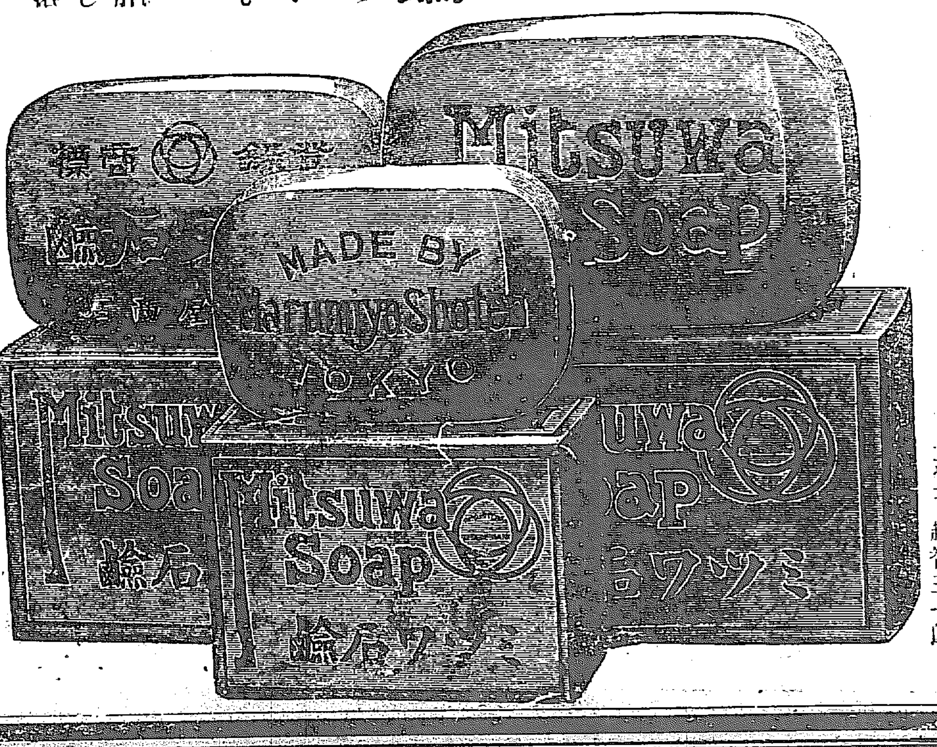
◎ミツワ石鹼は化學上の純石鹼たるのみならずなほ左の性狀を具備す。

一、原料を精選し、脂肪に、香料に、苟も刺戟を感ずべき虞あるものを用ひず。

一、温雅の芳香を有す。

一、細き泡を生ず、適度の溶解性を備へて能く水にも溶解し而かも浴室に用ひて半途に溶け崩るゝが如き憂ひなし。

故に一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衞生に適し、經濟に合する、理想的實用石鹼なり



▲賣捌＝全國到る處の藥舖。洋酒食料品店。小間物店。化粧品店▲

本舖

ミツワ石鹼　ミツワ椿油　ミツワ家庭藥　肝油ドロップス　御園化粧品

發賣元　◎丸見屋商店

東京市日本橋區橘町四丁目

藥劑、滋養品、石鹼、香粧品、小間物問屋

電信略號（○ミヤ）　振替口座東京七一〇〇番　電話浪花三〇番　營業部電話浪花四四〇八番　四四〇九番　四四五四番

高貴御料

美顔白粉

生れつき色が白いやうに附く……學者の製へた白粉

特異の品質を以て高貴御料の恩命を拜せる美顔白粉は

其後復又多數の貴族方より

有難き恩命を賜ふに至れり光榮寔に之れに過ぎず

▲[illegible]方々と共に御名を列記し謹みて御禮の意を表したり三度本品の光榮を記念す

閑院宮家
東伏見宮家
竹田宮家
北白川宮家
久邇宮家
梨本宮家
華頂宮家

岩倉公爵家　大山公爵家　一條公爵家　細川侯爵家　黒田侯爵家　佐々木侯爵家　前田侯爵家　鍋島侯爵家　淺田侯爵家　中御門侯爵家　柳原伯爵家　土方伯爵家　渡邊伯爵家　戸田伯爵家　奥平伯爵家　樺山伯爵家　甘露寺伯爵家　仁禮子爵家　西尾子爵家　金子子爵家　珍田子爵家　川上子爵家　松平子爵家

牧野子爵家　水野子爵家　三島子爵家　上杉子爵家　保科子爵家　岡部子爵家　黒田男爵家　岩崎久彌男爵家　岩崎小彌太男爵家　加藤男爵家　伊藤男爵家　（三井八郎右衛門）男爵家　（三井八郎次郎）男爵家　後藤男爵家　黒田男爵家　細川男爵家　船越男爵家　近藤男爵家　中島男爵家　岩村男爵家　（皇后宮御用掛）萩原家　澁谷大將家　（外務次官）松井家

淺野總一郎家　三井家（安道家）　江木衷家　（博文館主）大橋家　外交官吉田家　高山博士家　團家　園田家　中村是公家　豐川家　三井家　渡邊千冬家　鶴田家　田村家　稻垣家（前公使夫人）　今井家　プリンクリン家　山東家　山本直良家　小山家　津田家　西邑家

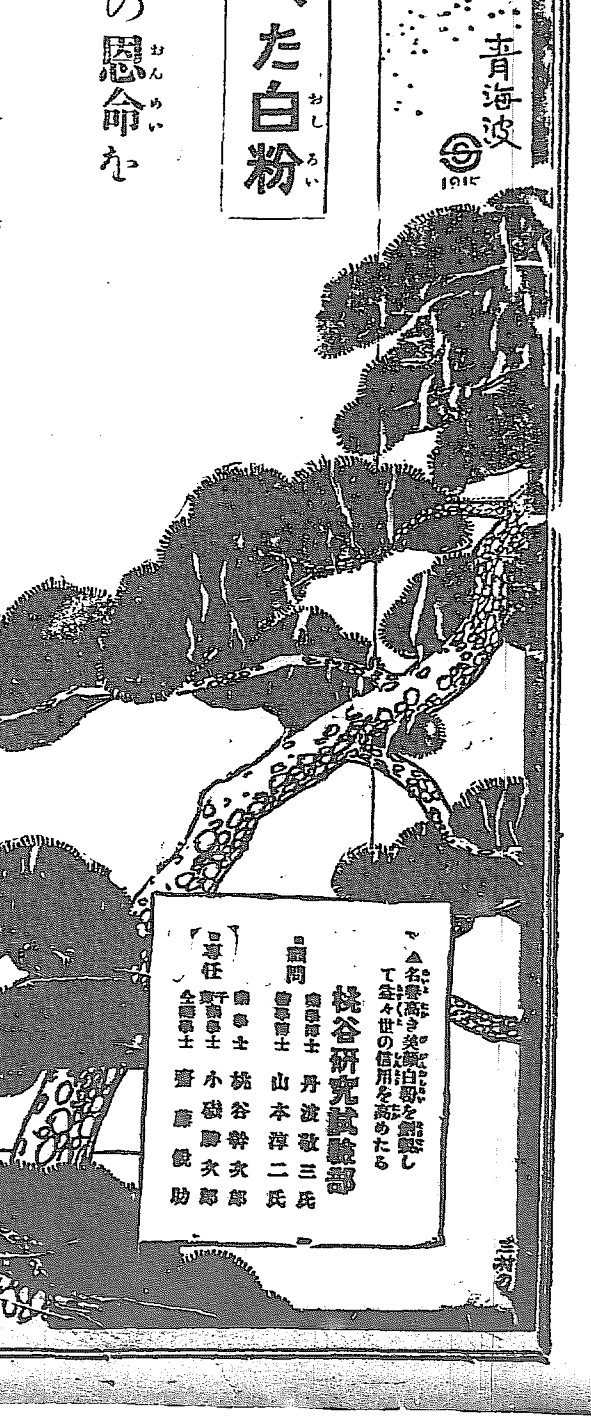
（次第不同）

宮家を始め奉り

上流婦人間に斯くまで厚き御信用を辱なうする美顔白粉の新しく珍しき二つの特色

その一
美顔白粉は專門學者の智識を傾けて苦心創製した我が邦唯一の發明白粉である事

その二
美しい光澤さ、純白の色、それに強い被覆力、此の三つが揃つて、生れつき色が白いやうな色艶に附くこと



▲名譽高き美顔白粉を創製して全々世の信用を高めたる

桃谷研究試驗部

□顧問
藥學博士　丹波敬三氏
醫學博士　山本淳二氏

□專任
藥學士　桃谷幹次郎
藥學士　小磯勝次郎
仝藥學士　齋藤健助